

# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2024-03 >

日	月	火	水	木	金	土
						1 2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

## 過去ログ

あなたは現在、2024年Marchの過去ログをしています。

### March28日Thursday: オカメザクラにメジロ(2024.3.13撮影)

カテゴリ: General 投稿者: someya

早咲きのオカメザクラが満開を迎え(3.13)、今はすっかり散ってしまいました。オカメザクラは、カンヒザクラとマメザクラの交配種で、濃いピンク色の花弁と下向きの花が特徴です。この後はソメイヨシノでお花見ができますね。楽しみです。



▲職員通用口付近にあるオカメザクラ

オカメザクラにメジロがやってきました。花に顔を突っ込んで密を舐めとっています。メジロのくちばしはスズメなどと比べると細長く、花の奥まで届きます。



▲オカメザクラにやってきたメジロ



▲伸びてくちばしをサクラに差し込んでいます



▲顔に花粉がついて黄色くなっています

## 検索

検索

## ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

## カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 観察会
- 観察会下見
- 昆虫
- 植物

## ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

## リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- google.co.jp



# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

&lt; 2024-02 &gt;

日 月 火 水 木 金 土

1 2 3

4 5 6 7 8 9 10

11 12 13 14 15 16 17

18 19 20 21 22 23 24

25 26 27 28 29

## 過去ログ

あなたは現在、2024年Februaryの過去ログをえています。

February19日Monday: 「観察しよう！手賀沼の冬鳥」を実施しました！

カテゴリ: General

投稿者: odaya



2024年2月18日に、手賀の丘青少年自然の家との共催の観察会「観察しよう！手賀沼の冬鳥」を実施しました。34名の方にご参加いただきました。2つのグループに分かれて林から沼までの幅広い環境で観察を行いました。

まず、手賀の丘の林の中で小鳥の姿を探しました。サクラの花芽を食べるカワラヒワや、樹幹を移動するカラ類やメジロ、コゲラの混群を観察しました。ここ数年は下草がきれいに刈られてしまっているためか、小鳥の数は少なめでした。

林を出ると、モズやムクドリが草地で採食する様子や、ムクドリの巣穴をめぐる争いの様子が見られました。田んぼで採食するツグミやハクセキレイも観察しました。

## 検索

検索

## ナビゲーション

[前の月](#)[次の月](#)[今日の投稿](#)[過去ログ](#)

## カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)[General](#)[お知らせ](#)[観察会](#)[観察会下見](#)[昆虫](#)[植物](#)

## ログイン

ログインID:

パスワード:

 このPCを他の人と共用する

ログイン

## リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)[google.co.jp](#)

手賀沼沿いに出ると、沼の水面で休息しているマガモなどのカモ類やカンムリカイツブリ、岸のヨシ原で採食しているアオジやホオジロなどを観察できました。



田んぼの中を歩いて手賀の丘に戻る途中、農道の足元からウズラが飛び出すサプライズもありました。上空をノスリ、トビ、ハシボソガラスが並んで飛ぶ様子も見られました。今回はタヒバリやヒバリの数は少な目で、タヒバリが1羽見られただけに留まりました。

林の中を歩いて青少年自然の家へ戻り、12時ごろに観察のまとめをして解散しました。2グループともに、見られた種は多少異なりますが、ともに41種の鳥を見聞きすることができました。

関東地方では冬に鳥の種数と個体数が最も多くなります。さらに、これからの季節は繁殖の準備を始めている留鳥たちの行動もおもしろくなってきます。ぜひ身近なところで観察を楽しんでいただければ幸いです。

ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。

# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2023-12 >

日	月	火	水	木	金	土
						1 2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
						31

## 過去ログ

あなたは現在、2023年Decemberの過去ログをしています。

December 4日Monday: あびこ自然観察隊「夜の動物観察会」を実施しました！

カテゴリ: General 投稿者: odaya



2023年12月2日（土）に、あびこ自然観察隊「夜の動物観察会」を実施しました。18名の方にご参加いただき、冬の河川敷の生き物を夕方から夜にかけて観察しました。

集合時刻の少し前に、コウノトリの8羽の群れが南側の空に現れ、西に飛んでいくのが観察できました。我孫子市でこれほどまとまった数が見られるのは恐らく初めてだと思います。他にも、川の上を飛ぶミサゴやハヤブサなどが観察できました。

## 検索



## ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

## カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 観察会
- 観察会下見
- 昆虫
- 植物

## ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

## リンク

我孫子市鳥の博物館

google.co.jp



▲西に飛んで行ったコウノトリ8羽の群れ。

観察会では、まずは夜行性の生き物たちの痕跡（フィールドサイン）を探しました。草地には、わかりにくかったですがヤマシギが採食した跡や糞が見つかりました。また、ウサギの糞や、ここではまだ数少ないイノシシの糞も見つかりました。



▲イノシシの糞。

風のない静かな夕方だったので、上空を飛び回るタヒバリやセグロセキレイ、ねぐら前に集合しているスズメやツグミの群れや、ヨシ原から鳴きながら飛び出したキジなどを観察できました。

あたりが暗くなった17時すぎから、夜行性の動物の姿を探しました。ヤマシギは合計8羽ほどを周辺で観察できました。他にも、草地に降りていたタシギやイカルチドリも見つかりました。タヌキはため糞をみんなで見る事ができたほか、遠くを移動しているところを何とか見る事ができました。今回のハイラ

イトは、帰り道で近くに出てきたキツネです。この場所では時々姿を見かけますが、この観察会で出現したのは初めてでした。



▲河川敷に降りていたヤマシギ（下見時の写真）。

19時前に集合場所に戻って、ヤマシギのお話をして解散としました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。今回の観察会では、申込期間中に定員に達してしまい、すべての方の参加希望にお応えすることができず、申し訳ありませんでした。また次の機会に、鳥の博物館の自然観察会にご参加ください。

# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2023-10 >

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

## 過去ログ

あなたは現在、2023年Octoberの過去ログをしています。

### October15日Sunday: 秋の谷津田の生きものたち

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [iwamoto](#)

鳥の博物館では、10月15日（日）に「秋の谷津田観察会」を実施する予定でしたが、雨天のため中止になりました。10月11日に観察会の開催地、岡発戸・都部の谷津田で、当日のスタッフと一緒に下見を行いましたので、観察できた生き物と秋の谷津田の様子を紹介します。



▲秋を彩るカラスウリの実。

## 検索

検索

## ナビゲーション

[前の月](#)

[次の月](#)

[今日の投稿](#)

[過去ログ](#)

## カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)

[General](#)

[お知らせ](#)

[観察会](#)

[観察会下見](#)

[昆虫](#)

[植物](#)

## ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

## リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)

[google.co.jp](https://www.google.co.jp)



▲まもなく冬眠に入るシュレーゲルアオガエル



▲オオカマキリの卵のう。



▲毎年、秋に通過してゆくエゾビタキ。



▲真っ赤に染まったナツアカネ。

谷津田のいたるところで、モズの鳴き声が響き渡っていました。今日の下見で確認した鳥は次のとおりでした。

キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コゲラ、モズ、カケス、ハシブトガラス、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、エゾビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ

丘陵地が浸食されて出来た、浅い谷の地形のことを谷津といいます。谷に流れる水を利用して、古くから田んぼが作られ、稲作に利用されてきました。谷津田は、平野にある一般的な水田に比べ、周囲の傾斜地に雑木林のある点が大きく異なり、たくさんの生き物を見ることができます。しかし高度経済成長期に、人々の燃料が薪から石油に代わり、薪を採るための雑木林が利用されなくなりました。さらに、農業の機械化・効率化によって、谷津田で稲作が行われなくなりました。そして、宅地造成工事が進み、谷津田は次々と姿を消しました。

その中でも、我孫子市内の岡発戸・都部地区には昔ながらの谷津田の風景が今でも残っています。市ではこの谷津田を「谷津ミュージアム」と名付け、市民と協働で保全活動を行っています。

鳥の博物館では市民の皆様に、市内に残る貴重な自然を体験して頂こうと、この谷津田で毎年、自然観察会を実施してきました。今回は残念ながら雨で中止となりましたが、お申込み下さいました皆様、有難うございました。また次の機会に是非、ご参加ください。

# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2023-08 >

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4 5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

## 過去ログ

あなたは現在、2023年Augustの過去ログを見えています。

### August 2日Wednesday: あびこ自然観察隊「セミの羽化観察会」

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [mochizuki](#)

先週の7月29日にセミの羽化観察会を行いました。

多くの方にお申し込みいただきまして、大人14人、子供15人の方にご参加いただきました。

はじめはアビスタの学習室にてセミのクイズを開催。



セミはどこに卵をうむ？寿命はどのくらい？といったクイズで、意外と知らないセミの一面を知ることが出来たかと思います。

その後は、外に出てセミの幼虫探しを始めました。

## 検索

検索

## ナビゲーション

[前の月](#)

[次の月](#)

[今日の投稿](#)

[過去ログ](#)

## カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)

[General](#)

[お知らせ](#)

[観察会](#)

[観察会下見](#)

[昆虫](#)

[植物](#)

## ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

## リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)

[google.co.jp](http://google.co.jp)



ちょうど穴から出るタイミングの幼虫や、もう穴から出て地面を歩いている幼虫など、たくさんの幼虫を見かけることができました。



今はほとんどの人がスマホを持っているので、セミの幼虫撮影大会！という感じに。

ぬけがらを集めることで、セミの種類や、性別を調べることができます。また、毎日同じ場所で集めれば、どんな日に羽化が多いのか調べることもできるでしょう。

まだまだ夏休みの時間があるので、セミをテーマにした自由研究にチャレンジしてみてください。

# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2023-06 >

日 月 火 水 木 金 土

1 2 3

4 5 6 7 8 9 10

11 12 13 14 15 16 17

18 19 20 21 22 23 24

25 26 27 28 29 30

## 過去ログ

あなたは現在、2023年Juneの過去ログをしています。

## June 3日Saturday: 大雨で広場の景色が一変

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [someya](#)

昨日から今朝にかけて、大雨が降りました。みなさんは安全に過ごせましたでしょうか。昨日は線状降水帯の怖さを実感しました。「さっきまでたいしたことがなかったのに、もうこんなに水が」と驚きました。次々と発生した雨雲が帯状になり、数時間にわたって同じ場所を通過・停滞するのが線状降水帯の特徴です。

鳥の博物館がある我孫子市では避難所が開設されるなど、予断を許さない状況が続きました(現在は閉鎖)。昨日の17時頃、博物館周辺の道路も、ものすごい量の雨水で川のようになっていました。博物館の敷地にも水が流れ込んできましたが、土嚢を積んで難を逃れました。車は水しぶきをあげながら走っていました。

本日の午後には雨が止み、今はよく晴れていますが、まだ手賀沼からの水が溢れたままです。鳥の博物館の目の前にある、手賀沼親水広場では増水した手賀沼の水と親水広場が一続きになり、広場の中はまるで池のようです。遊歩道もまだ水の中です(6月3日16時現在)。手賀沼にお越しの際は気を付けてお過ごしください。



## 検索

検索

## ナビゲーション

[前の月](#)

[次の月](#)

[今日の投稿](#)

[過去ログ](#)

## カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)

[General](#)

[お知らせ](#)

[観察会](#)

[観察会下見](#)

[昆虫](#)

[植物](#)

## ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

## リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)

[google.co.jp](https://www.google.co.jp)

▲水が溜まった広場 2023.6.3撮影



▲通常の広場 2022.6.14撮影



▲奥に見える手賀沼と手前の広場が繋がっています  
間に見えるはずの遊歩道が見えません



▲沼沿いにあるベンチは背もたれの半分しか見えません



▲広場の中にあるミニ手賀沼という人工池もわからない程



▲広場が水だらけになりムクドリも困っているように見えました

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | [トップページに戻る](#) | Since 15,Mar.2008

# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2023-05 >

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

## 過去ログ

あなたは現在、2023年Mayの過去ログをしています。

## May24日Wednesday: 2023年の手賀沼オオヨシキリ調査を実施しました！

カテゴリ: General

投稿者: odaya



5月24日に、2023年の手賀沼オオヨシキリのカウント調査を実施しました。雄が最も活発にさえずるこの時期に、目立つ場所に出てきている雄の数を数え、手賀沼の環境の変化をモニタリングすることを目的に実施しています。

2020年から2022年までの3年間は博物館スタッフのみで行っていましたが、今回は4年ぶりに鳥の博物館市民スタッフと博物館友の会から9名の方に参加いただき、計14名で5班に分かれてカウント調査を行いました。

## 検索

検索

## ナビゲーション

前の月

次の月

今日の投稿

過去ログ

## カテゴリ

全てのカテゴリ

General

お知らせ

観察会

観察会下見

昆虫

植物

## ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

## リンク

我孫子市鳥の博物館

google.co.jp



△ヤナギの枝にとまってさえざるオオヨシキリの雄。

今回は、手賀沼内では合計34羽、手賀川では17羽のオオヨシキリのさえずっている雄を数えました。手賀沼内の数は、少なかった一昨年（48羽）と昨年（40羽）を下回り、調査を始めた1987年以来最も少ない数になってしまいました。手賀川でも、少なかった一昨年（45羽）と昨年（28羽）をさらに下回り、調査を始めてからの最小個体数を更新しました。

囀るオオヨシキリの数は天候や人通りなどにも影響されやすいのですが、今回は特に発見率が低くなる風の強さなどには問題がなかったため、これらの結果は手賀沼周辺のオオヨシキリがここ3年ほどで急激に減少していることを示唆していると思われます。来年以降もモニタリングを継続していきたいと考えています。

\*この調査は、1987年から開始され、1997年から2008年まで中断されたあと、2009年から再開されています。

**May 7日Sunday: あびこ自然観察隊「シギ・チドリ観察会」を実施しました！**

カテゴリ: **General**

投稿者: **odaya**



2023年5月6日に、あびこ自然観察隊「シギ・チドリ観察会」を実施しました。当日朝は集合場所だった新木駅を含むJR成田線の一部区間が強風のため運休となってしまう、申し込まれていた11名のうち7名の方が集合場所に来られず、残念ながら参加者4名での開催となりました。

駅から5分ほど歩いて水田に出ると、強い南風のため、歩くのもやっとという状態。時々砂ぼこりが飛んできて、眼にごみが入ってきます。今回期待していたシギ・チドリの姿はほとんど見られず、水田からタシギが2回飛び立つのが見られただけに留まりました。ここ数日晴れた日が続いているため、あまり降りずに通過していつているのかもしれませんが。



△水田から飛び立ったタシギ（別の日に撮影した写真です）。

その代わりに、水田の上空を雌を追って複数の雄が飛び回るカルガモや、強風の中さえずるオオヨシキリやヒバリ、水田で餌を探すアオサギなど、この時期らしい農地の鳥達の姿を観察しました。

少し早めに田んぼから引きあげ、駅までの帰り道では、街路樹で繁殖するカワラヒワやキジバトなどの身近な鳥の繁殖行動を観察しました。

今回は目的だったシギ・チドリ類の観察が天候と渡来数の問題で十分にできませんでした。てがたんのコースとは異なる開けた農地の環境の中で、自然観察を楽しみました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。また鳥の博物館の自然観察会にご参加ください。

# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2023-04 >

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
						30

## 過去ログ

あなたは現在、2023年Aprilの過去ログをしています。

### April19日Wednesday: 2023年のオオバン調査を実施しました！

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [odaya](#)



△オオバンを探しているようです。

4月19日の午前中に、毎年実施している手賀沼のオオバン調査を実施しました。2020年から2022年までの3年間は博物館スタッフのみで行っていましたが、今回は4年ぶりに鳥の博物館市民スタッフと博物館友の会から5名の方に参加いただき、計10名で4班に分かれてカウント調査を行いました。

## 検索



## ナビゲーション

- [前の月](#)
- [次の月](#)
- [今日の投稿](#)
- [過去ログ](#)

## カテゴリ

- [全てのカテゴリ](#)
- [General](#)
- [お知らせ](#)
- [観察会](#)
- [観察会下見](#)
- [昆虫](#)
- [植物](#)

## ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

## リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)

google.co.jp



△泳いで移動するオオバン。つがいと推定されるうちの雄。

今回は、合計113羽、8つがい（推定）のオオバンがカウントされました。オオバンの個体数は少なめで、特に下沼側での減少傾向が顕著でした。上沼は個体数はここ数年回復傾向にあります。推定されるつがい数は少なく、越冬または渡り個体がみられているだけの可能性もあります。今後も、同様の調査を継続して個体群の変化をモニターしていく予定です。



△沼沿いのヨシ原に作られたコブハクチョウの巣。

オオバンの個体数カウントと併せて、コブハクチョウの生息状況の調査も行いました。手賀沼の全周で周辺の農地と併せて合計25羽が確認され、8か所で営巣（造巣または抱卵中）が記録されました。

# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2023-03 >

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

## 過去ログ

あなたは現在、2023年Marchの過去ログをしています。

## March25日Saturday: あびこ自然観察隊「春の谷津田観察会」を実施しました！

カテゴリ: General 投稿者: mochizuki

3月19日に「春の谷津田観察会」を行いました。  
今回は大人18人、子供3人の方にご参加いただきました。



当日は春の陽気を感じられる暖かい日で、コブシの花が満開でした。

観察会を行う数日前には雨が何日か降っていたので、田んぼに水が入り、カエルたちには恵の雨となったようです。

谷津田では2月頃にニホンアカガエルが産卵し、3月頃にアズマヒキガエルが産卵します。

## 検索

検索

## ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

## カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 観察会
- 観察会下見
- 昆虫
- 植物

## ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

## リンク

我孫子市鳥の博物館  
google.co.jp



ニホンアカガエルの卵

季節が進むと見られる生き物も変わっていきます。

今年は10月15日に秋の谷津田観察会も行うので、皆さまぜひご参加ください。

# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2023-02 >

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

## 過去ログ

あなたは現在、2023年Februaryの過去ログをしています。

## February19日Sunday: あびこ自然観察隊「観察しよう！手賀沼の冬鳥」を実施しました

カテゴリ: General 投稿者: odaya



2023年2月19日に、手賀の丘青少年自然の家との共催の観察会「観察しよう！手賀沼の冬鳥」を実施しました。21名の方にご参加いただきました。2つのグループに分かれて林から沼までの幅広い環境で観察を行いました。

まず、手賀の丘の林の中で小鳥の姿を探しました。シジュウカラなどのカラの混群や、松の木に止まってさえずるカワラヒワなどを観察できました。一方の班は池の奥では、オオタカの成鳥が水浴びしている珍しい光景を観察することができました。

## 検索

検索

## ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

## カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 観察会
- 観察会下見
- 昆虫
- 植物

## ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

## リンク

我孫子市鳥の博物館  
google.co.jp



▲池の奥で水浴びしていたオオタカの成鳥。

林を出ると、モズのつがい草で採食の様子や、なわばり宣言のためにギチギチと鳴きかわす姿が見られました。冬鳥のツグミやタヒバリも田んぼに降りているのが見られました。

手賀沼沿いに出て、用水路から飛び出したクイナ、沼の上を飛ぶミサゴ、ヨシの中で採食するアオジやオオジュリン、沼の水面で休息するカモの間を見ることができました。暖かく風もなかったので、ホオジロやヒバリがさえずっているのが観察できました。

農道の上に、何者かに捕食されたホオジロの羽毛が散らばっていました。どうやら哺乳類による捕食のようです。



▲散らばっていたホオジロの羽毛。

田んぼの中を歩いて手賀の丘へ戻り、12時ごろに観察のまとめをして解散しました。2グループ合わせて、43種の在来種の鳥と、3種の外来種の鳥を見聞きすることができました。関東地方では冬に鳥の種数と個体数が最も多くなります。さらに、これからの季節は繁殖の準備を始めている留鳥たちの行動もおもしろくなってきます。ぜひ身近なところで観察を楽しんでいただければ幸いです。

ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。

# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2022-12 >

日 月 火 水 木 金 土

1 2 3

4 5 6 7 8 9 10

11 12 13 14 15 16 17

18 19 20 21 22 23 24

25 26 27 28 29 30 31

## 過去ログ

あなたは現在、2022年Decemberの過去ログをしています。

**December 4日Sunday: あびこ自然観察隊「夜の動物観察会」を実施しました！**

カテゴリ: General

投稿者: odaya



2022年12月3日（土）に、あびこ自然観察隊「夜の動物観察会」を実施しました。21名の方にご参加いただき、冬の河川敷の生き物を夕方から夜にかけて観察しました。

日没前のまだ明るい時間に河川敷の駐車場に集合し、まずは夜行性の生き物たちの痕跡（フィールドサイン）を探してみました。溝のそばの草地には、わかりにくかったですがヤマシギが採食した跡や糞が見つかりました。例年観察できているタヌキのため糞や足跡は、今年は観察できませんでした。

## 検索

検索

## ナビゲーション

前の月

次の月

今日の投稿

過去ログ

## カテゴリ

全てのカテゴリ

General

お知らせ

観察会

観察会下見

昆虫

植物

## ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

## リンク

我孫子市鳥の博物館

google.co.jp



△ヤマシギが嘴を地面に差し込んでできた穴。

河川敷で日没を待っていると、ねぐら前に集合しているツグミの群れや、利根川から飛び立ったカモ類の群れを観察することができました。ベニマシコ、アカハラ、モズ、キジなどがねぐら入り前に鳴きかわす声は良く聞こえましたが、それらの姿はあまりよく見えませんでした。

あたりが暗くなった17時すぎから、夜行性の動物の姿を探しました。ヤマシギは合計5羽ほどを周辺で観察できました。中には逃げずにじっとしている個体が2羽ほどいて、じっくり観察することができました。



△草地に降りていたヤマシギ（別の日に撮影した写真）。

今年は、これまでとは異なり観察場所周辺でのタヌキの数が少ないようで、いつものコースでは見ることができませんでした。そこで、下流側に移動しながら探したところ、なんとか1頭だけ見つけることができましたが、警戒心が強く、残念ながら全員で観察することはできませんでした。

その代わりに、参加者の方に教えていただいたため糞を1か所で確認することができました。木の実や小動物の骨が入っている様子を見ることができました。



△タヌキのため糞。

一番下流側の駐車場まで行ったところで解散としました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。また鳥の博物館の自然観察会にご参加ください。

# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2022-10 >

日 月 火 水 木 金 土  
1  
2 3 4 5 6 7 8  
9 10 11 12 13 14 15  
16 17 18 19 20 21 22  
23 24 25 26 27 28 29  
30 31

## 過去ログ

あなたは現在、2022年Octoberの過去ログをしています。

## October 2日Sunday: 我孫子駅前のねぐら入り

カテゴリ: **General** 投稿者: **mochizuki**

秋から冬にかけて、夕方に我孫子駅前のロータリーに行くと鳥たちが集団でねぐら入りする様子が見られます。

ねぐらは漢字で「埒」と書き、鳥が寝ている場所のことを指します。

我孫子駅前のロータリーの木は、ムクドリやスズメ、ハクセキレイの集団ねぐらとなっていて、日没の30分ほど前から鳥たちが集まってきます。



日没前は周辺のビルに止まったり、上空を飛び回って忙しく動き回っていますが、しばらくすると木の中に集まって寝始めます。

先週ざっくりと数えたところ、ムクドリが300羽ほど、スズメが200羽ほど、ハクセキレイが50羽ほどが集まって寝ていました。

## 検索

## ナビゲーション

前の月  
次の月  
今日の投稿  
過去ログ

## カテゴリ

全てのカテゴリ  
General  
お知らせ  
観察会  
観察会下見  
昆虫  
植物

## ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

## リンク

我孫子市鳥の博物館



google.co.jp



ビルの看板の上の点々は全てムクドリで、数えると58羽いました。手前の木にも20羽ほど止まっているのが分かります。

数百羽もの鳥が集まるので、「襲ってきそうで怖い」と言われることもありますが、ねぐら入りに来た鳥が人を襲うことはありません。安心して観察してみてください。

# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2022-09 >

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

## 過去ログ

あなたは現在、2022年Septemberの過去ログをしています。

### September28日Wednesday: 鳥博からイソヒヨドリみえました

カテゴリ: **General** 投稿者: **someya**

これまでも鳥の博物館の位置からイソヒヨドリの声が聞こえることはありましたが、最近では声だけでなく、姿も確認できることが増えてきました。出勤途中に「あっ、いた」なんて気軽にみかけるようになってきて、今後どうなっていくのか気になる鳥です。



鳥の博物館から撮影したイソヒヨドリ (2022.9.16撮影)

## 検索

検索

## ナビゲーション

[前の月](#)

[次の月](#)

[今日の投稿](#)

[過去ログ](#)

## カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)

[General](#)

[お知らせ](#)

[観察会](#)

[観察会下見](#)

[昆虫](#)

[植物](#)

## ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

## リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)

[google.co.jp](http://google.co.jp)



Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | [トップページに戻る](#) | Since 15,Mar.2008

# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

&lt; 2022-08 &gt;

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

## 過去ログ

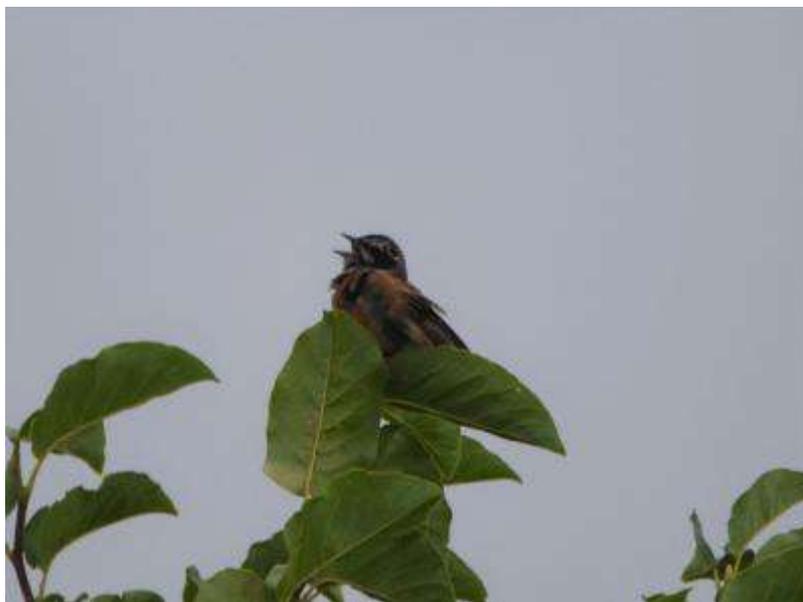
あなたは現在、2022年Augustの過去ログを見えています。

### August16日Tuesday: あびこ自然観察隊「ツバメのねぐら観察会」を実施しました！

カテゴリ: General 投稿者: odaya

2022年8月14日（日）に、あびこ自然観察隊「ツバメのねぐら観察会」を実施しました。16名の方にご参加いただき、手賀沼沿いを夕方から夜にかけて歩いて観察を行いました。

手賀沼の南岸にある「道の駅しょうなん」に集合し、ツバメのねぐらのある大津川の河口まで、1時間ほどかけてゆっくりと歩いて移動しました。途中、遊歩道沿いでさえずっているホオジロや、沼の杭にねぐら入りしているカワウを観察しました。



▲遊歩道沿いでさえずっていたホオジロ。繁殖期が長く、手賀沼周辺では9月上旬ごろまでさえずりが聞かれる。

18時30分ごろ、日没前後に大津川河口にある「ヒドリ橋」に到着しました。大津川河口のヨシ原の様子をみると、スズメはすでに多くがねぐら入りしていま

## 検索

## ナビゲーション

[前の月](#)[次の月](#)[今日の投稿](#)[過去ログ](#)

## カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)[General](#)[お知らせ](#)[観察会](#)[観察会下見](#)[昆虫](#)[植物](#)

## ログイン

ログインID: パスワード:  このPCを他の人と共用する

## リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)[google.co.jp](https://www.google.co.jp)

したが、ツバメはまだ数が少ないようだったので、見通しの良いところで様子を見ることにしました。



▲大津川のヨシ原でツバメを待っているところ。

18時45分ごろから沼沿いのヨシ原の上を飛ぶ様子が観察できたので、ねぐら入り地点の近くに移動して観察を行いました。数千羽のツバメの群れが、ねぐら入り前にヨシ原の上を一斉に移動する様子を観察できました。ツバメの群れは真っ暗になる前、18時55分ごろからヨシの中に徐々に降りていき、19時ごろには飛んでいるツバメはほとんどいなくなりました。



▲ツバメのねぐら入りの様子（別の日に撮影した写真）。

帰り道では、夜の餌場に向かうカルガモの様子を観察したり、バットディテクター（高い周波数の音を人間の耳で聞こえるように変換する装置）を用いてアブラコウモリの声を聞いたりしました。19時50分ごろに道の駅まで戻り、現地で解散しました。



▲バットディテクターを使ったアブラコウモリの観察。

ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。また鳥の博物館の自然観察会にご参加ください。

# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2022-07 >

日 月 火 水 木 金 土  
1 2  
3 4 5 6 7 8 9  
10 11 12 13 14 15 16  
17 18 19 20 21 22 23  
24 25 26 27 28 29 30  
31

## 過去ログ

あなたは現在、2022年Julyの過去ログをしています。

### July15日Friday: 窓を開けたらイソヒヨドリ

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [someya](#)

イソヒヨドリは全国の海岸、崖、河口やその周辺に生息する鳥です。近年、海岸周辺から、かなり内陸へ入ったところでもみられるようになってきました。駅やその周辺のビル街、ショッピングモールなどで子育てしている様子を見かけます。今シーズンは私の生活圏の駅周辺（9駅）全てでみられるようになり、さらに海なし県埼玉のとある駅や周辺のビルで子育てしていました。よく通る声でさえずり、建物に反響してよく声が聞こえます。飛びながらさえずる姿は目立ちます。

6月下旬、近隣の市で、窓をガラリと開けたら目の前の畑でイソヒヨドリがエサをとっていました。とうとう、こんな日が…。じっくり観察できました。



「青い鳥（オス成鳥）を見たのですが何という鳥でしょうか。」の問いに対する答えが、イソヒヨドリになることが多くなってきました。みなさんの周辺でもイソヒヨドリをみかけることがあるかもしれませんね。

## 検索

## ナビゲーション

[前の月](#)  
[次の月](#)  
[今日の投稿](#)  
[過去ログ](#)

## カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)  
[General](#)  
[お知らせ](#)  
[観察会](#)  
[観察会下見](#)  
[昆虫](#)  
[植物](#)

## ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

## リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)

google.co.jp



Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | [トップページに戻る](#) | Since 15,Mar.2008

# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

&lt; 2022-06 &gt;

日 月 火 水 木 金 土

1 2 3 4

5 6 7 8 9 10 11

12 13 14 15 16 17 18

19 20 21 22 23 24 25

26 27 28 29 30

## 過去ログ

あなたは現在、2022年Juneの過去ログを見えています。

### June 8日Wednesday: 梅雨の生きもの

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [mochizuki](#)

梅雨に入り小雨の降る日が続くようになりました。雨だと外に出るのも億劫になってしまいますが、雨の日だからこそ出会える生き物もあります。梅雨といえばでんでん虫、カタツムリを見かけることが多くなります。鳥の博物館の周辺でも5~10種類くらいのカタツムリの仲間が見られます。ぜひ探してみてください。



ウスカワマイマイ。  
名前の通り皮(殻)が薄いのが特徴です。コンクリ等の壁面によくついています。

## 検索

## ナビゲーション

[前の月](#)[次の月](#)[今日の投稿](#)[過去ログ](#)

## カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)[General](#)[お知らせ](#)[観察会](#)[観察会下見](#)[昆虫](#)[植物](#)

## ログイン

ログインID:

パスワード:

 このPCを他の人と共用する

## リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)[google.co.jp](https://www.google.co.jp)



ヒダリマキマイマイ。

上のウスカワマイマイと巻く向きが違います。ほとんどのカタツムリは右巻き(殻の中心部から時計回りに成長するのが右巻き)ですが、ヒダリマキマイマイは左巻きです。



鳥博のポンプ小屋の扉についているこの小さいものは...



ナミコギセルというカタツムリです。

普通のカタツムリと違って細長い形をしたカタツムリの一種です。キセル貝は、昔のタバコを吸う時の煙管(きせる)に形が似ているからついた名前なのですが、今では煙管を見ることはほとんど無いですね。



ナメクジ。

ナメクジも実はカタツムリの仲間で、正確には、カタツムリの一部の種が殻を無くす方向に進化したものがナメクジです。



このあたりで見られるナメクジは2種類いて、こちらはチャコウラナメクジです。この種類はまだ殻の痕跡が背中に見られます(少し白くふくらんだ部分)。

今年は10月のがたんでナメクジをテーマにした観察会をします。興味あるかたはぜひご参加ください。

### June 3日Friday: 子育てで賑わっています

カテゴリ: [General](#)      投稿者: [someya](#)

最近の日差しが強く、蒸し暑い日も多いです。「このままいくと夏の暑さに耐えられるのかな」と不安に思いますが、毎年夏の暑い時期はいつの間にか過ぎていきます。暑さになれていく人間ってすごいですね。

個人的な感想はさておき、今の季節、鳥は忙しそうに子育てをしています。その様子は手賀沼周辺でもよくみかけます。ヒナがエサをねだる声、親がヒナを呼ぶような声。耳を澄ましてみると、いろいろな鳥の今しか聞けない声が聞こえてきます。最近出会った巣立ち雛の写真をご紹介します。鳥への影響を考え、撮影はみかけた位置から、観察も短時間に止めています。



▲スズメ 左：ヒナ、右：成鳥  
ヒナがエサを受け取る場所でした



▲ヒナはくちばしの黄色い部分が目立ちます



▲ ハシボソガラス 左：成鳥、右：ヒナ

ヒナがエサをねだっていました

同じ木には3羽のヒナがいました。同じ場所によく見かけました



▲ ヒナは目が青白く、口の中が赤っぽい



▲ムクドリのヒナ

数羽のヒナが動き回っていました

ムクドリは家の隙間や木の穴に巣をつくります

# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

&lt; 2022-05 &gt;

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

## 過去ログ

あなたは現在、2022年Mayの過去ログをしています。

May24日Tuesday: 2022年の手賀沼オオヨシキリ調査を実施しました！

カテゴリ: General

投稿者: odaya



5月24日に、2022年の手賀沼オオヨシキリのカウント調査を実施しました。雄が最も活発にさえずるこの時期に、目立つ場所に出てきている雄の数を数え、手賀沼の環境の変化をモニタリングすることを目的に実施しています。

例年、この調査には我孫子野鳥を守る会、鳥の博物館友の会、鳥博市民スタッフなどのみなさんに参加していただいているのですが、2020年、2021年と同様に新型コロナウイルスの感染対策のため、博物館スタッフだけで手分けして行いました。

## 検索

## ナビゲーション

[前の月](#)[次の月](#)[今日の投稿](#)[過去ログ](#)

## カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)[General](#)[お知らせ](#)[観察会](#)[観察会下見](#)[昆虫](#)[植物](#)

## ログイン

ログインID:

パスワード:

 このPCを他の人と共用する

## リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)[google.co.jp](https://google.co.jp)



▲ニセアカシアの枝にとまってさえずるオオヨシキリの雄。

今回は、手賀沼内では合計40羽、手賀川では28羽のオオヨシキリのさえずっている雄を数えました。

手賀沼内の数は、少なかった昨年（48羽）をさらに下回り、調査を始めた1987年以来\*最も少なかった2011年と並ぶ最低数となりました。手賀川も、調査を開始した2012年以來最も少なかった昨年（48羽）をさらに大きく下回ってしまいました。囀るオオヨシキリの数は天候や人通りなどにも影響されやすいのですが、2年続けての減少傾向となったことは心配です。来年以降もモニタリングを継続していきたいと考えています。

\*この調査は、1987年から開始され、1997年から2008年まで中断されたあと、2009年から再開されています。

## May 8日Sunday: モズの子育て

カテゴリ: **General**      投稿者: **someya**

2週間程前、手賀沼沿いの公園内を歩いていると、公園中に響き渡る鳥の鳴き声。声の方向をみると、モズの巣立ち雛が親にエサをねだっているところでした。親がエサを持って戻ってくると、ヒナは大きな口を開けてエサを受け取っていました。親が離れると、ヒナは静かになりました。葉に紛れて、ぱっと見ではわからなくなります。

手賀沼遊歩道沿いでは毎年モズの子育てを複数箇所で見ることができます。観察はかなり離れたところから短時間に止めています。特に子育て中の鳥の観察は、鳥を追いかけ回すことのないよう、細心の注意を。



▲左：モズ成鳥、右：モズのヒナ



▲身を潜めるモズのヒナ

# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

&lt; 2022-04 &gt;

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

## 過去ログ

あなたは現在、2022年Aprilの過去ログをしています。

### April21日Thursday: 2022年のオオバン調査を実施しました！

カテゴリ: [General](#)投稿者: [odaya](#)

4月20日の午前中に、毎年実施している手賀沼のオオバン調査を実施しました。例年は、我孫子野鳥を守る会、鳥の博物館友の会、鳥博市民スタッフなどのみなさんに参加していただいているのですが、昨年、一昨年に続き、新型コロナウイルスの感染対策のため博物館スタッフ3名で手分けして行いました。

今回は、合計139羽、11つがいのオオバンがカウントされました。少なかった昨年の88羽から回復し、2010年代後半と同等のカウント数になりました。ただし、推定つがい数は昨年の13つがいよりもさらに少ない結果となりました。

昨年に続き、2020年まで最も数が多かった下沼の南岸での個体数が少ない傾向が続いています。また、過去5年ほどの間には数の少なかった上沼の北岸での個体数が増加している傾向が認められています。同じ手賀沼の中でも、オオバンの好む場所に経年変化がみられることは興味深いです。

## 検索

## ナビゲーション

[前の月](#)[次の月](#)[今日の投稿](#)[過去ログ](#)

## カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)[General](#)[お知らせ](#)[観察会](#)[観察会下見](#)[昆虫](#)[植物](#)

## ログイン

ログインID:

パスワード:

 このPCを他の人と共用する

## リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)[google.co.jp](#)



オオバン の 個体数 カウント と 併せて、コブハクチョウ の 生息 状況 の 調査 も 行いま した。手賀沼 の 全周 で 周辺 の 農地 と 併せて 合計 43 羽 が 確認 され、11 か所 で 営巢 (造巢 または 抱卵 中) が 記録 されま した。

#### April 17 Sunday: 日立市かみね動物園の「はちゅうるい館」

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [muramatsu](#)

先日、茨城県の日立市かみね動物園に遊びに行ってきました。かみね動物園は1957年に開園し、60年以上の歴史があります。私にとっては子供の頃に1年に1度訪れていた場所なので、とても思い出深い場所です。

今回のお目当ては、2018年にオープンした「はちゅうるい館」。  
ウがカタカナで強調されているのは、日立市の鳥がウミウだからです。  
日立市には全国で唯一のウミウの捕獲場があり、有名な岐阜県の長良川の鶺鴒  
で使われるウミウもこの地で捕獲され供給されています。期間限定で一般公開も  
されているので、気になる方は「ウミウ捕獲場」で検索してみてください。

さっそくウミウに会いに「はちゅうるい館」へ。  
まずは隠れてウミウを捕獲する鳥屋(とや)の雰囲気再現した入り口から。



最初は捕獲者になった気分で隙間から観察。



一階下へ降りると、ウミウが泳ぐ姿を見ることができます。



泳いでいる時のあしの動きやカワウとの違いでよく挙げられる顔の黄色い裸出部の形を間近に見ることができる展示でした。次回は、もぐもぐタイム（餌の時間）に合わせて、ダイナミックな食事シーンを観察に行ってみようと思います。

### April 3日Sunday: ソメイヨシノ満開

カテゴリ: General 投稿者: someya

鳥の博物館前、手賀沼親水広場の遊歩道沿いのサクラが見頃をむかえています。ソメイヨシノはほぼ満開で、昨日土曜日はたくさんの方で賑わっていました。本日も絶好の花見日和のところ、あいにくの雨で肌寒い日となりました。何とかお天気の良い日まで花が持ち堪えてくれることを祈ります。

ただ今の期間、日没から21時まで桜のライトアップを実施中です。夜桜もキレイです。親水広場の多目的広場では竹灯籠のライトアップもあり、こちらは本日が最終日（18時から20時まで）の予定です。大きな駐車場もありますので、まだご覧になっていない方はぜひ足をお運び下さい。



▲桜のライトアップ



▲ソメイヨシノ



▲サクラのアーチ



▲ソメイヨシノと手賀大橋



▲近隣の市でサクラとハナモモが満開でした

# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2022-03 >

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4 5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

## 過去ログ

あなたは現在、2022年Marchの過去ログをしています。

### March19日Saturday: 広場のクスノキ

カテゴリ: **General** 投稿者: **someya**

博物館前の親水広場を歩いてきました。クスノキの葉をよく見てみると、緑の葉だけではなく、紅葉した葉がみえます。この赤い葉は古い葉で、これから落ちる葉です。クスノキは常緑広葉樹です。常緑とは言っても、年中同じ葉であるわけではありません。クスノキはこれからの時期、落葉する赤い葉、濃い緑の葉、新しく出てきた黄緑色の葉が混在し、葉が入れ替わる様子を観察できます。急にあたたかい日もある今の季節、樹木の様子もみるみる変わっていきます。ちょっと足をとめて樹木観察をしてみたいかでしょうか。



▲クスノキ

## 検索

検索

## ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

## カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 観察会
- 観察会下見
- 昆虫
- 植物

## ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

## リンク

我孫子市鳥の博物館  
[google.co.jp](http://google.co.jp)



▲ツグミ 広場で採餌していました。くちばしが泥で汚れていました



▲セイヨウタンポポ 種が軽くて飛びやすく量が多いのが特徴です

### March14日Monday: 春の谷津田観察会の様子 2022.3.13

カテゴリ: General 投稿者: saito

前ブログで紹介した、春の谷津田観察会を岡発戸・都部の谷津田で実施しました。薄曇りでしたが暖かく、春の観察会にはぴったりのお天気でした。観察会の様子と確認した鳥を紹介します。



▲東我孫子駅前での受付準備の様子



▲谷津田をゆっくり歩きながら春らしい生き物の活動を観察しました



▲3月8日の下見では、見られなかったアオイスミレが咲いていました。



▲オスのキジ1羽が4羽のメスを見守りながら目の前を歩いて行くところを皆で観察しました。



▲谷津の中にあるイヌシデの林の手入れが行われていました。



▲ナナホシテントウが動き回っていました。羽化する様子も観察できました。



▲下見の時に見逃していたジャノヒゲの青い果実も観察しました。

観察会で確認できた鳥は、次のとおりです。なお、Vは目視、Sはさえずり、Cは地鳴きでの観察を示しています。

キジ (V、S)、カルガモ (羽毛のみ)、キジバト (V、S) ヒクイナ (C)、トビ (上空通過)、カワセミ (V、C)、コゲラ (C)、ハシボソガラス (V、C)、ハシブトガラス (V、C)、ヤマガラ (C)、シジュウカラ (S、C)、ヒヨドリ (V、C)、ウグイス (S、C)、メジロ (S、C)、ムクドリ (V)、シロハラ (V)、アカハラ (V)、ツグミ (V)、スズメ (V)、ハクセキレイ (V、C)、セグロセキレイ (V、C) カワラヒワ (V、C)、シメ (V)、ホオジロ (V、S)、カシラダカ (C)、アオジ (V、C)、コジュケイ (S)。

### March 8日Tuesday: 春の谷津田のようす 2022.3.8

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [saito](#)

鳥の博物館では、3月13日(日)に「春の谷津田観察会」を実施します。今日は、観察場所の岡発戸・都部の谷津田で、当日のスタッフと一緒に下見を行いました。

なお、観察会の応募者はすでに定員に達してしまいましたが、今日観察できた生き物を通じて谷津田の様子を紹介します。



▲谷津田の入り口の標識。湖北台方面からアプローチした場合、ここがスタート地点になります。



▲田んぼ・水路・斜面林で構成される谷津田の景観。



▲谷津の湿った場所には、ハンノキとヤナギの樹が群生しています。



▲林縁では、低木のウグイスカグラの花が咲き始めていました。



▲日当たりの良い斜面では、タチツボスミレが咲いていました。



▲ニワトコの花芽も開き始めています。



▲コブシは開花寸前といったところ。数日中には開花するでしょう。



▲フキノトウが伸び始めています。



▲カイコの原種となったクワコの繭がクワの枝にぶらさがってました。



▲アカガエルの卵塊。谷津田の春は、アカガエルの産卵から始まります。



▲谷津田では冬鳥のビンズイが群れていました。



▲エナガの群れも見られました。スタッフが、巣材用に羽毛を運んでいる個体を確認しました。繁殖が進行中です。



▲冬鳥のジョウビタキのオス同士が追いかけていました。



▲冬鳥のアカハラも見られました。



▲冬鳥のカシラダカも各所で見かけました。



▲冬鳥のアオジもたくさん見られましたが、すぐヤブの中に隠れてしまいます。

谷津田全体にウグイスやコジュケイのさえずりが響き渡っていました。鳥の動きは活発で、これから繁殖期を迎える様子が感じ取れました。

今日の下見で確認した鳥は次のとおりでした。

コジュケイ、カワウ、ヒクイナ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ウグイス、メジロ、アカハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、アオジ。

岡発戸・都部の谷津田には、雑木林の落ち葉を肥料とし、斜面からしみ出した水を水源にを使って稲作していた昭和30年頃までの里山の面影が残っています。こうした環境はまた、多様な生き物を育んでいます。我孫子市では、この谷津田を「谷津ミュージアム」と名付けて、市民と協働で環境保全活動を行っています。

## March 2日Wednesday: オオタカ現る。～裏山バードウォッチング～

カテゴリ: **General**

投稿者: **muramatsu**

先週、博物館の裏山から落ち葉がガザガサする音が。

まだまだ餌が少ないこの季節は、アカハラやキジバトなどが地面で落ち葉をひっくり返りながら餌を探す姿がよく見られるので、小型の鳥が動いているのかと思いきや、いつもより音が大きく、もっと大きな動物が動いている気配でした。

タヌキの足音とも違うぞと思い、そっと覗いてみると木々の中にオオタカのメスの姿が（画像が悪くてすみません）。





しばらく動かずにいましたが、視線が気になったのか飛び立って行きました。オオタカがいた場所をしてみると、捕まえたドバトがありました。



食事の邪魔をしてしまい申し訳ないと思いながら2時間ほど経って再び覗いてみると、また戻ってきて食事を続けていました。

近年、都市部にも進出していると言われるオオタカ。博物館裏山バードウォッチングでは初記録でした。この冬は他にルリビタキ、エナガ、シメ、ジョウビタキなどの姿も観察しています。以前ブログに書きましたが、過去にはミソサザイが観察されたこともあります。

今後も裏山バードウォッチングを継続してみようと思います。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | [トップページに戻る](#) | Since 15,Mar.2008

# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2022-02 >

日 月 火 水 木 金 土

1 2 3 4 5

6 7 8 9 10 11 12

13 14 15 16 17 18 19

20 21 22 23 24 25 26

27 28

## 過去ログ

あなたは現在、2022年Februaryの過去ログをしています。

### February 1日Tuesday: 手賀沼遊歩道はエナガが見頃！

カテゴリ: [General](#)

投稿者: [saito](#)



▲手賀沼遊歩道を歩くとチー ジュリジュリとにぎやかに鳴き交わすエナガの声が聞こえてきました。

## 検索

検索

## ナビゲーション

[前の月](#)

[次の月](#)

[今日の投稿](#)

[過去ログ](#)

## カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)

[General](#)

[お知らせ](#)

[観察会](#)

[観察会下見](#)

[昆虫](#)

[植物](#)

## ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

## リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)

[google.co.jp](https://www.google.co.jp)



▲10羽くらいの小群が餌を取りながらせわしなく動き回っています。



▲樹上の枝先や、ヨシの葉鞘の中のカイガラムシを食べているようです。



▲エナガの群れ混じってシジュウカラとメジロもいました。



▲エナガがはげしく鳴き出したかと思うと、モズが姿を現しました。エナガをねらったのでしょうか。





▲水辺に目を移すとカワセミやクイナも見られました。

一年中で一番寒い今、鳥たちは食料確保に必死で警戒心が弱くなっています。日中の遊歩道はいつも人通りが多いので、鳥もあまり人を警戒しません。近づきすぎず、追い回さず観察すれば、間近で鳥を観察できるよいチャンスです。

# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2022-01 >

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

## 過去ログ

あなたは現在、2022年Januaryの過去ログを見えています。

### January 9日Sunday: ロウバイの花が咲いていました(2022.1.8撮影)

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [someya](#)

木に枯れた実がついています。何の実でしょうか。



正解はロウバイの実です。タイトルでわかっちゃいましたね。ロウバイはこれから見頃をむかえる真冬に楽しめる花です。部分的にきれいに花が咲いていました。ロウバイはロウバイ科の植物で、中国原産です。漢字で表記すると「蠟梅」と書き、ウメの仲間かと思いきやウメはバラ科の植物です。

## 検索

検索

## ナビゲーション

[前の月](#)

[次の月](#)

[今日の投稿](#)

[過去ログ](#)

## カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)

[General](#)

[お知らせ](#)

[観察会](#)

[観察会下見](#)

[昆虫](#)

[植物](#)

## ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

## リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)

google.co.jp



▲ロウバイの花



▲ロウバイの葉

実を開けてみると茶色っぽい種が3つ入っていました。大きい実にはもう少し多くの種が入っています。ロウバイは種から大きく育てることができます。



▲ロウバイの実をあけてみました  
フキノトウとフクジュソウが頭を出していました。



どちらがフキノトウでどちらがフクジュソウか見分けてみて下さい。

## January 9日Sunday: 雪の次の日(2022.1.7撮影)

カテゴリ: **General**      投稿者: **someya**

6日は雪がたくさん降って大変でした。雪に慣れていないこの辺りでは、交通網にも影響が出て、昨日の夜と今日の朝は苦労された方も多かったと思います。

昨晩に雪はやみ、今朝は青空と雪のコントラストがきれいで、それだけで気分が明るくなります。



▲手賀沼周辺の雪景色



▲鳥博3階ベランダの水槽は一面氷で覆われていました。こんな日はそう多くありません。厚みは5mm程で薄め（日陰の氷は厚さ1cm程）



▲空に氷をかざすとピカピカ光ってキレイです



▲おまけで家の庭のロウバイ(右)とニシキギ(左)  
雪がこんもり被っていました

### January 9日Sunday: 手賀沼にも雪が降りました(2022.1.6撮影)

カテゴリ: General 投稿者: someya

令和4年が始まりました。本年も鳥の博物館をよろしく願いいたします。

1月6日、本州の南岸を低気圧が通過した影響で、我孫子にも雪がたくさん降りました。降り始めは降ったり止んだりで、すぐにとけてしまう雪なのかなと思っていたところ、夕方には一面真っ白に。雪が好きな私は嬉しくなり、人がいない広場に繰り出し、雪を踏みしめる音を楽しみながら帰りました。



▲雪化粧された鳥の博物館



▲博物館の看板  
市の鳥オオバンマークが雪に隠れていたため救出



▲ハリギリにも雪が被っていました



▲オカメザクラの冬芽も寒そうに見えます



▲手賀大橋の明かりと雪が相まって辺り一帯が明るく見えました



▲ガードレールの反射板にこれでもかと積もった雪

# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

&lt; 2021-12 &gt;

日 月 火 水 木 金 土

1 2 3 4

5 6 7 8 9 10 11

12 13 14 15 16 17 18

19 20 21 22 23 24 25

26 27 28 29 30 31

## 過去ログ

あなたは現在、2021年Decemberの過去ログを見ています。

## December26日Sunday: あびこ自然観察隊「夜の動物観察会」を実施しました！

カテゴリ: General 投稿者: odaya

2021年12月4日（土）に、あびこ自然観察隊「夜の動物観察会」を実施しました。8名の方にご参加いただき、冬の河川敷の生き物を夕方から夜にかけて観察しました。



穏やかな天候に恵まれた日没前のまだ明るい時間に、夜行性の生き物たちの痕跡（フィールドサイン）を探してみました。野球場の水たまりの乾いたあとの地面をよく探すと、タヌキの足跡が見つかりました。河川敷の堤防の上には、タヌキのため糞が見つかりました。ギンナンやカキの種、ネズミ類の毛が糞の中から出てきました。また、溝のそばの草地には、少しわかりにくかったですがヤマシギが採食した跡が見つかりました。

## 検索

## ナビゲーション

[前の月](#)[次の月](#)[今日の投稿](#)[過去ログ](#)

## カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)[General](#)[お知らせ](#)[観察会](#)[観察会下見](#)[昆虫](#)[植物](#)

## ログイン

ログインID:

パスワード:

 このPCを他の人と共用する

## リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)[google.co.jp](https://www.google.co.jp)



△野球場に残っていたタヌキの足跡。



△堤防の上にあったタヌキのため糞。



△ヤマシギが嘴を地面に差し込んでできた穴。

河川敷で日没を待っていると、ねぐらに向かうタヒバリの群れや、キジが騒がしく鳴き交わしながらねぐら入りする様子を観察できました。  
あたりが暗くなった17時すぎ、先ほどフィールドサインを見つけたあたりを照らしてみると、タヌキやヤマシギが出てきているのがすぐに見つかりました。



△草地に降りていたヤマシギ（別の日に撮影した写真を掲載）。

ヤマシギは全部で8羽ほど、タヌキはのべ5頭ほどを観察することができました。  
最後に、夜の生活に適応したヤマシギ体のつくり、冬の生態や渡りについてお話しして、19時ごろ観察会を終わりにしました。  
ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。また鳥の博物館の自然観察会にご参加ください。

December15日Wednesday: 12月の自然散策見どころ紹介～てがたんのテーマより～

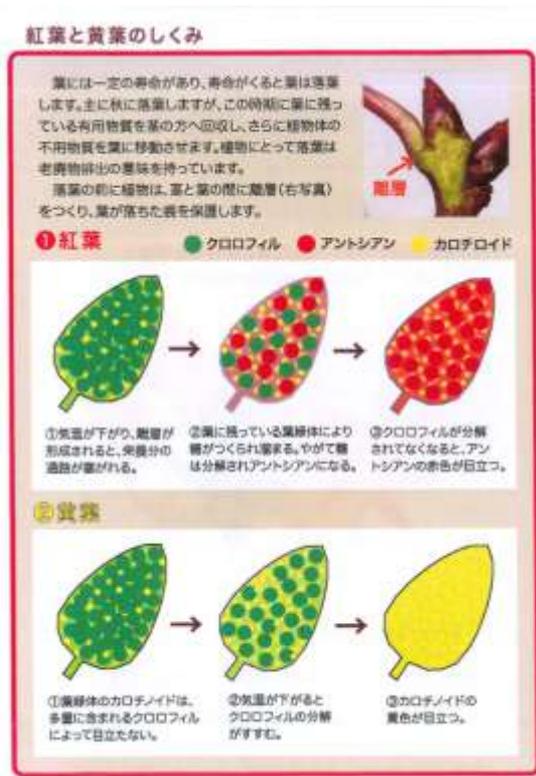
カテゴリ: **General**      投稿者: **muramatsu**

今年も残るところあと2週間ほどになりました。  
先日の雨で気温がぐっと下がり、いよいよ冬本番という雰囲気です。  
過去のがたんのテーマから、寒い季節の自然散策の見どころをチェックしてみましよう。

これまでの12月のテーマ一覧（中止になったものを含み、重複した内容もあります）がこちらです。

- 2021 「白黒つけよう！2種のセキレイ」
- 2020 「白黒つけよう！2種のセキレイ」
- 2019 「冬の虫探し」
- 2018 「ホオジロたちの暮らしかた」
- 2017 「地衣散歩」
- 2016 「葉っぱの形で木の名前がわかるかな？」
- 2015 「冬の散歩道」
- 2014 「冬の散歩道」
- 2013 「声でさがす林の冬鳥」
- 2012 「色々な木の実の形と種類」
- 2011 「冬支度と一年ふりかえり」
- 2010 「冬支度と植物」
- 2009 「〇〇で遊ぼう」
- 2008 「落ち葉と木の実を探そう」
- 2007 「植物の冬越しを観察しよう」
- 2006 「落ち葉を拾おう」
- 2005 「手賀沼の冬鳥と落ち葉」
- 2004 「ユリカモメの観察&ひつつき虫さがし」

やはり冬をキーワードにしたテーマが多いですね。  
植物は落葉の仕組みや落ち葉の形などに注目したものが多く、  
地面を探しながらじっくり観察しました。



2008年12月のてがたんパンフレット



2016年12月のてがたんパンフレット

鳥類はユリカモメやカモの仲間などの冬鳥をテーマにしたものがありました。

また、手賀沼沿いの枯れたヨシ原では餌を求めて集まってくるホオジロの仲間が観察しやすいので、遊歩道を散策する際は足を止めてヨシを割る音や鳴き声を頼りに姿を探してみるのもおもしろいでしょう。

**姿と暮らしを比べてみよう**

 <p><b>ホオジロ</b> 手賀沼周辺で子育てし、一年中みられる。腹面は一律に褐色。チヂチ チヂチと連続した地鳴き。</p>	 <p><b>カシラダカ</b> 手賀沼周辺では冬鳥。腹面は白色。腹にうろこ模様が出る。チッチットと一声ずつの地鳴き。</p>
 <p><b>アオジ</b> 手賀沼周辺では冬鳥。腹面は黄色い羽も。チッチットと一声ずつの地鳴き。</p>	 <p><b>オオジュリン</b> 手賀沼周辺では冬鳥。腹面は白く、脇に褐色の縦線がある。地鳴きは、チーあるいはチューあるいはチューイーン。</p>

※地鳴き、普段の個体間のコミュニケーションに使われる鳴き声で、求愛やなわばり宣言のためのさえずりと区別される。

2018年12月のてがたんパンフレット

## December14日Tuesday: 12月中旬の手賀沼と周辺の田んぼ

カテゴリ: General 投稿者: saito

もうすぐ冬至です。連日北国から雪の便りが届くようになりました。手賀沼水面は南下してきたカモ類でにぎわってきました。

昼間水面で休んでいるカモ類の多くは、夜になると周辺の田んぼに落穂などを食べに出て行きます。

そんな田んぼの昼の様子を見に行くと、オオバンやミヤマガラス、ムクドリやスズメなど、いろいろな鳥の群れが田んぼで餌を食べていました。



▲手賀沼越しの鳥の博物館の景観。



▲水面に群れるマガモ。オスがさかんに求愛行動をしていました。



▲田んぼでは、冬鳥のミヤマガラスの群れが落穂を食べていました。



▲危険を感じると、電線上に一時避難します。電線上のミヤマガラス（右2羽）とハシブトガラス（左2羽）。



▲しわがれた声で鳴くミヤマガラス。



▲田んぼで餌を食べるオオバンの群れ。脇の水路から上陸したオオバンは、徐々に田んぼの真ん中へと進んでいきます。



▲二番穂をつついて食べるオオバン。



▲ミヤマガラスの群れの隣で餌を採るハシボソガラス。



▲ムクドリの群れ



▲スズメの群れ



▲単独で餌を採るツグミ

田んぼの表面には落穂や草の種が散らばり、地中にはミミズや昆虫の幼虫が隠れています。冬を越す多くの鳥にとって、田んぼは大切な食料源となっています。

### December 3日Friday: ヒドリガモを観察しよう

カテゴリ: General 投稿者: someya

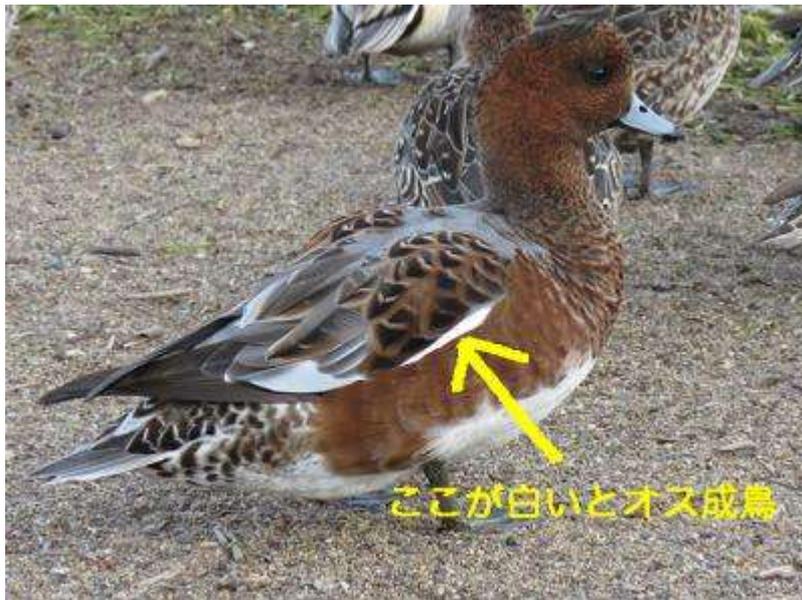
今回は手賀沼で観察できるヒドリガモについて紹介します。ヒドリガモは、オスの頭は赤褐色で、額から頭頂部にかけてクリーム色です。体は主に灰色と黒色です。メスは全体的に茶色です。くちばしは雌雄共に青灰色で先端が黒色です。鳴き声は「ピュー、ピュー」と笛の音のような高い音や「ピャツ、ピャツ」といった声です。



▲ヒドリガモのオス(4個体)とメス(2個体) (別シーズン2月中旬に撮影)

先日、カモのエクリプスについてお話ししました。ヒドリガモのエクリプスは

こんな感じです。



▲ オス (エクリプス)

メスと違い、茶の赤みが強いことと、雨覆が白いことでオスの成鳥だとわかります (今シーズン11月初旬に撮影)



▲奥：オス (エクリプス) 手前：メス (別シーズン11月中旬に撮影)

移り行く季節を味わいながら、生き物の季節に応じた姿を観察するのは面白いものです。身近な自然にも新たな発見はたくさんあります。

# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2021-11 >

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

## 過去ログ

あなたは現在、2021年Novemberの過去ログをしています。

## November 9日Tuesday: 博物館まわりの生き物たち (11月)

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [saito](#)

立冬も過ぎました。木々も一層色づきはじめました。そして冬鳥の渡来も気になります。先日、手賀沼遊歩道を散策した時の紅葉の様子と出会った鳥たちを紹介します。



▲11月の遊歩道から見た手賀沼の風景

◎赤や黄色に色づきはじめた木々の葉

## 検索

検索

## ナビゲーション

[前の月](#)

[次の月](#)

[今日の投稿](#)

[過去ログ](#)

## カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)

[General](#)

[お知らせ](#)

[観察会](#)

[観察会下見](#)

[昆虫](#)

[植物](#)

## ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

## リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)

[google.co.jp](http://google.co.jp)



ハナミズキ	ハゼノキ	ヌルデ
ツタ	ヤマノイモ	アカメガシワ
ユリノキ	エノキ	カツラ

▲紅葉のメカニズムについては、鳥の博物館で実施している月例の自然観察会「てがたん」のパンフレットをご覧ください。

[https://www.city.abiko.chiba.jp/bird-mus/info2/tegatan/tegatan2006\\_2016.files/tegatanpamph200612.pdf](https://www.city.abiko.chiba.jp/bird-mus/info2/tegatan/tegatan2006_2016.files/tegatanpamph200612.pdf)

◎遊歩道で出会った鳥たちの様子



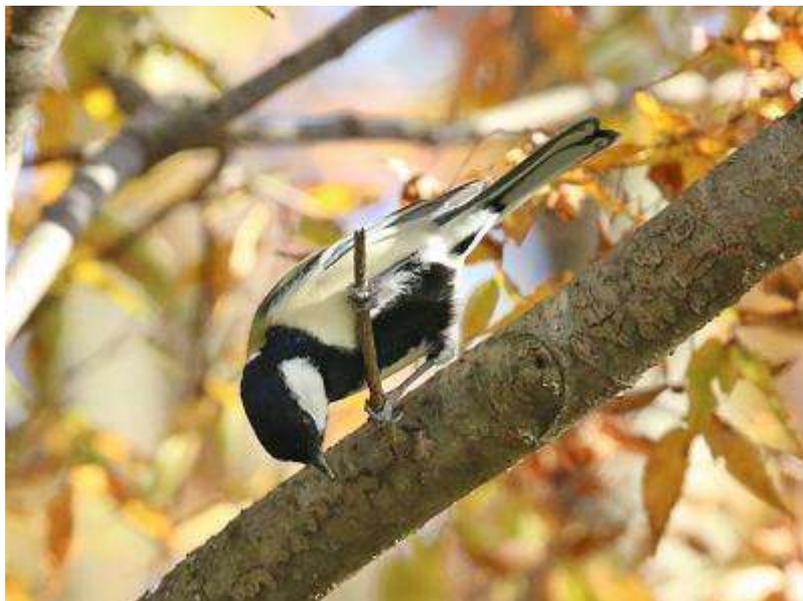
▲モズのオスが、いろいろな鳥の鳴き声をおりまぜた複雑な声でつぶやくように鳴いていました。モズのこの鳴き方は「ぐぜり」とか「サブソング」と呼ばれ、ウグイスやオオヨシキリのさえずりと同じようにメスへの求愛行動として知られていますが、秋晴れの陽気にさそわれたのでしょうか？この時はセンダイムシクイ、カワラヒワ、メジロのさえずりが聞き取れました。



▲冬鳥のアオジが下草の中から樹上に出てきました。

ヨシ原からは、「チューーン」というオオジュリンの声や「チャッ チャッ」というウグイスの声、「キュルルルル」や「コッコッコッ・・・」と鳴くヒクイナの声、「ケーケーケー」というクイナの声が同時に聞こえにぎやかでした。





▲エナガ（上）とシジュウカラ（下）が混群をつくり「ジュリリ ジュリリ」、  
「ツピー ツピー ジュクジュクジュク」などさかんに鳴き交わしながら採食して  
いました。



▲冬鳥として渡来したばかりのコガモのオスは、まだエクリップス（11月5日付当  
ブログ参照）の羽装のものがほとんどです。これから徐々に換羽が進み、オスの  
特徴がはっきりしてきます。体のところどころに見られる縞模様の羽毛はオスの  
あかしです。これからどんどんこの羽毛に置き換わり、さらに顔と頭の緑と茶色  
の羽毛も整いオスの特徴がはっきりとします。



▲冬鳥のカンムリカイツブリも岸边近くを泳いでいました。手賀沼では、これから冬にかけて数が増えてゆきます。



▲ムクドリがムクノキの果実を食べていました。ムクノキの果実は人が食べても美味しいと感じるほど果肉が甘く、ムクドリにとってはご馳走です。鳥と木の実の関係については、次のURLから過去の「てがたん」パンフを参照してください。

[https://www.city.abiko.chiba.jp/bird-mus/info2/tegatan/tegatan2006\\_2016.files/tegatanpamph200611.pdf](https://www.city.abiko.chiba.jp/bird-mus/info2/tegatan/tegatan2006_2016.files/tegatanpamph200611.pdf)

暑くも無く寒くも無く、歩きやすい季節です。晴れた日には、晩秋の手賀沼遊歩道を散策してみませんか。生き物たちを少し意識して散策することで、毎年繰り返される季節変化を感じるとともに、身近な生き物たちのこれまで見たこともない行動や姿に新鮮な驚きを感じることができるはずです。

November 5日Friday: カモのエクリップス

カテゴリ: General

投稿者: someya

秋から冬にかけてやってくる冬鳥で手賀沼周辺は賑やかです。先日手賀沼公園内でオナガガモの群れをみかけました。渡ってきた頃は、殆どのオスがメスのような目立たない羽装（エクリップス）で、時間が経つにつれ、段々とオスらしい派手な羽になっていきます。その変わっていく様子を観察するのは面白く、毎年楽しみにしています。先日来館された親子さんから、マガモのエクリップスの写真を見せていただき、エクリップス話で盛り上がりました。

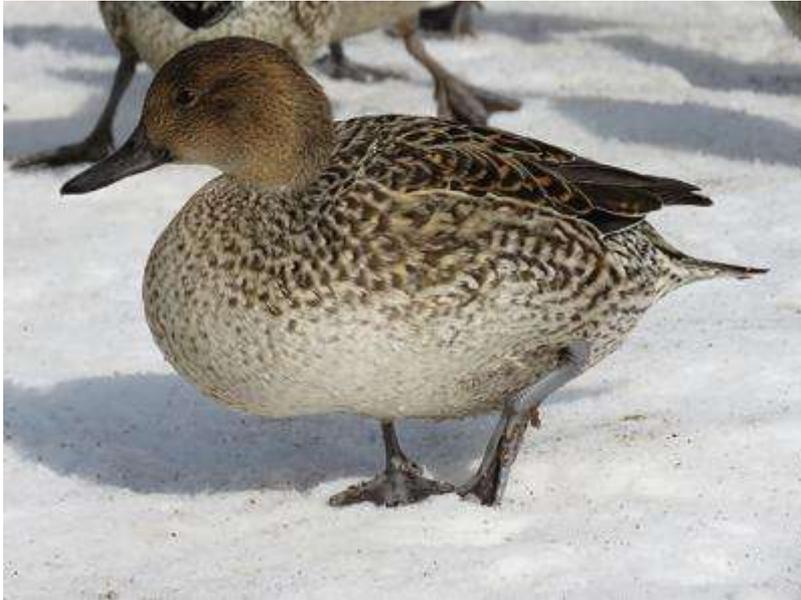


▲オスのオナガガモ（エクリップス）

別のシーズンに撮影したオナガガモの写真も参考にご覧下さい。



▲オナガガモ（オス）



▲オナガガモ (メス)



▲オナガガモ (左:メス 右:オス)



▲餌を探すオナガガモ (左:メス 右:オス)

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | [トップページに戻る](#) | Since 15,Mar.2008

# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2021-10 >

日	月	火	水	木	金	土
						1 2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
						31

## 過去ログ

あなたは現在、2021年Octoberの過去ログをしています。

### October 5日Tuesday: 博物館周りの生き物たち

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [saito](#)

10月になりました。北国からは、ガンやハクチョウ渡来の便りが届いています。手賀沼でも冬鳥のカモの姿が見られるようになりました。さて博物館周りで今週見られた生き物をレポートします。



▲鳥の博物館前を走る手賀沼ふれあいラインの路傍のスマシレ。種子と閉鎖花も見られました。

## 検索

検索

## ナビゲーション

[前の月](#)

[次の月](#)

[今日の投稿](#)

[過去ログ](#)

## カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)

[General](#)

[お知らせ](#)

[観察会](#)

[観察会下見](#)

[昆虫](#)

[植物](#)

## ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

## リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)

google.co.jp



▲7月29日の同ブログで、花期が長く100日間赤い花が咲くと紹介したサルスベリ（百日紅）、その名のとおり10月に入ってもまだ花が見られます。



▲今年は開花が早かったキンモクセイですが、まだ花が見られ香りも漂っていました。



▲秋の七草の一つ、萩の花（ヤマハギ）が咲いていました。



▲鳥の博物館が毎月行っている自然観察会「てがたん」のコースで、今年の8月頃から観察されるようになったキマダラカメムシの成虫（右）と終齢幼虫（左）。日本では長崎県で江戸時代に初めて確認され、その後国内の分布は九州に限られていましたが、近年急激に分布域が北上し、2008年には東京都、千葉県の松戸市では数年前から見られるようになったそうですが、2021年ついに「てがたん」コース（我孫子市）に出現です。



▲分布域の北上では先輩格のヨコヅナサシガメ。「てがたん」コースでは、常連の昆虫です。



▲9月11日の「てがたん」で参加者が見つけてくれたビジョオニグモ。それ以来、いつも同じエノキの葉上の糸で覆われた隠れ家に潜っていますが、円網に獲物がかかると猛スピードで出て来て、その美しい姿を見ることができました。



▲網にかかったナツアカネ。ジョロウグモが食事中でした。



▲ライギョの呼び名もある外来種のカムルチー。これも外来種のナガエツルノゲイトウの群落の縁に姿を現しました。



▲北米からの外来種のカダヤシも群れも見られました。



▲小魚の群れには、クチボソのほか、中国南部や朝鮮半島原産の外来種のタイリクバラタナゴの稚魚の姿が見られました。



▲博物館前の釣り堀付近では、今年生まれのハシボソガラスの兄弟らしき3羽が一緒に活動していましたが、そのうちの1羽が日干しになったヘラブナを食べていました。



▲セグロセキレイが博物館のテラスの屋根で追いかけて合っていました。冬に形成される採食なわばり確保のための防衛行動のようです。



▲ムクドリも博物館駐車場わきの芝生や畑の上に群れて採食していました。濃淡のモザイク模様の羽衣の幼鳥が少し混じっていました。



▲冬の採食なわばり防衛のため、目立つ樹上で高鳴きするモズの姿を「てがたん」コースのあちらこちらで見かけました。

今週、利根川沿いの北新田では、旅鳥のノビタキとシマセンニュウの姿を見かけました。ヒヨドリが群れで渡る姿もよく見かけるようになりました。夏鳥と冬鳥の入れ替わる端境期を経て、これからいよいよ冬鳥の季節となります。

# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

&lt; 2021-09 &gt;

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3 4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

## 過去ログ

あなたは現在、2021年Septemberの過去ログをしています。

## September24日Friday: 10月の自然散策見どころ紹介～てがたんのテーマより～

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [muramatsu](#)

秋分の日が過ぎ、だんだんと涼しい日も増えてきました。これから秋が深まるにつれて、身近に見られる生き物たちも変化していきます。過去のがたんのテーマから、10月の自然散策の見どころをチェックしてみましょう。

これまでの10月のテーマ一覧（中止になったものを含み、重複した内容もあります）がこちらです。

- 2020 「樹木と鳥の「持ちつ持たれつ」」
- 2019 「樹木と鳥の「持ちつ持たれつ」」
- 2018 「ヒヨドリの渡り」
- 2017 「ヒヨドリの渡り」
- 2016 「秋の生き物たち」
- 2015 「渡る生き物」
- 2014 「イネ科・カヤツリグサ科」
- 2013 「鳥の渡りとモズの高鳴き」
- 2012 「飛んだり、跳ねたり、泳いだり ー植物の種子分散ー」
- 2011 「鳥の食べる木の実・草の実」
- 2010 「渡り鳥を見よう」
- 2009 「巻きつく植物と秋の花」
- 2008 「クモの観察&手賀沼の秋を探そう」
- 2007 「秋の花を探そう！」
- 2006 「秋をさがそう」
- 2005 「ヒヨドリの渡りと木の実と越冬蝶」
- 2004 「モズの高鳴きを聞こう」

多いテーマは鳥の渡りと秋の植物です。9月のがたんでは渡り前の夏鳥の姿も見られていましたが、10月になるとモズやヒヨドリなどの漂鳥をメインに観察している回が多いですね。やはりモズの高鳴きや群れになって移動するヒ

## 検索

## ナビゲーション

- [前の月](#)
- [次の月](#)
- [今日の投稿](#)
- [過去ログ](#)

## カテゴリ

- [全てのカテゴリ](#)
- [General](#)
- [お知らせ](#)
- [観察会](#)
- [観察会下見](#)
- [昆虫](#)
- [植物](#)

## ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

## リンク

- [我孫子市鳥の博物館](#)
- [google.co.jp](#)

ヨドリの姿は秋の風物詩のひとつです。



鳥の博物館手賀定例観覧会 2004年10月9日(土)

**とりはく てがたん**

コブタの葉 植物標 5 Oct. 2004

ムラサキシキブの葉 植物標 3 Oct. 2004

2秒間に24回の行々行々...

高鳴きの一部のソナグラム

キチ キチ キチ キチ... と鋭く長くモズの声が聞こえはじると秋本番です。「モズの高鳴き」と呼ばれるこの声は、冬に向かい遠くなる餌を確保するための「なわばり宣言」の意味があり、この時期にはオスもメスもこの声で鳴きます。

2004年10月のてがたんパンフレット

### ヒヨドリってどんな鳥?

ヒヨドリは、スズメ目ヒヨドリ科の鳥で、スズメより大きく、ハトよりも小さい大きです。「ヒヨコ、ヒヨコ」という可愛らしい鳴き声から、その名が付けられています。雑食性ですが、果実や昆虫を好みます。パタパタと羽ばたいては翼を閉じて閉ざす遠く飛行(はじょうひこう)を行うので、行動からも長く似た大きさの鳥と見分けられず、



▲青灰色ですが、口は赤い色です。



▲翼を閉じているのが特徴です。

### ヒヨドリの渡り

ヒヨドリは越冬を食む日本全国に分布していますが、冬になると北へ移動を続けます。雪が積る地域では、冬になると餌が得られなくなるためです。多くの小鳥が越冬に渡りをするのに対し、ヒヨドリは越冬(主に午前中)に渡りをし、普段より少し控えめな声で鳴き交わしながら、林から林へ、短距離の移動を繰り返して渡りをしていく様子が観察できます。外敵に捕られないよう、危険を察知すると直ぐに林の中に入ります。



▲多くの小鳥は渡りに使います。



▲渡っている鳥をよく見ると観察は可能です。

### ヒヨドリの渡りを記録してみよう

群れが飛び出した時刻と飛んで行った方向を記録してみましょう。記入例を参考に、自分だけの渡りの記録をつけてみましょう。

群れ番号	時間	群れの羽数	飛んだコースなど
例	10:40	5	番地神社→手賀沼
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			



ヒヨドリが飛んだコースを矢印(→)で記入してみましょう。オレンジの点が今日の観察場所です。

2017年10月のてがたんパンフレット

植物は主に木の実や種などをテーマにしたものが多く、その形態や鳥との関わりについて紹介しています。



2019年10月のてがたんパンフレット



2012年10月のてがたんパンフレット

木の実や種を食べにやってくる鳥の姿を観察しやすい季節なので、樹木や草の中にいる鳥を探してみるのもおもしろいでしょう。自然散策の参考になれば幸いです。

September17日Friday: ヒヨドリ (幼鳥) が水浴びにやってきました

カテゴリ: General 投稿者: someya

先日、博物館のベランダの隅っこで、今年生まれのヒヨドリが水浴びをして

いました。まだ、くちばしがピンク色、羽色も成鳥のヒヨドリとは違います。ブルブルと体を動かし水浴びをしていました。



▲1羽目のヒヨドリ

虹彩（瞳）は茶色のような灰色のような色



隠れて観察を続けていると、もう1羽ヒヨドリの幼鳥がやってきました。こちらの個体はくちばしが黒く、羽毛も1羽目よりは成鳥に近い感じです。2羽で水浴び合戦です。



▲2羽目のヒヨドリ  
虹彩（瞳）は茶色



▲ボサボサとした羽がかわいらしい  
成鳥と幼鳥の違いを観察するのも面白いですね。



▲参考 成鳥のヒヨドリ

# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2021-08 >

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

## 過去ログ

あなたは現在、2021年Augustの過去ログを見えています。

### August31日Tuesday: 鳥の博物館周りの生き物たち

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [saito](#)

二十四節気の処暑も過ぎ暑さも一段落と言いたいところですが、まだまだ残暑が続いています。8月26日に博物館周辺を散策した時に見かけた生き物を紹介します。



▲水浴びに来たムクドリの子鳥。換羽が進行中で、色の褪せた古い羽とツヤのある新しい羽が入り混じり、まだら模様になっています。

## 検索

検索

## ナビゲーション

[前の月](#)

[次の月](#)

[今日の投稿](#)

[過去ログ](#)

## カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)

[General](#)

[お知らせ](#)

[観察会](#)

[観察会下見](#)

[昆虫](#)

[植物](#)

## ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

## リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)

[google.co.jp](https://www.google.co.jp)



▲頭の羽毛が赤褐色の今年生まれのスズメが草むらに群れていました。



▲水辺では、淡褐色の羽毛につつまれたバンの雛が泳いでいました。



▲遊歩道沿いではツクツクボウシがあちこちで鳴いていました。



▲肉食昆虫のハラビロカマキリもクモの糸にはかきません。



▲立体的な巣をつくるジョロウグモが目につくようになりました。巣の中には大型のメスのわきに小型のオスの姿が見られます。



▲日陰では渦巻き状の隠れ帯をつくるウズグモが見られました。



▲薩摩の実とも呼ばれるハゼの果実に擬態したワキグロサツマノミダマシが葉陰に潜っていました。



▲葉の色そっくりのハナグモが葉裏に隠れていました。

▲生垣の中に棚網を張ったクサグモが、袋状の隠れ家から出てきました。



▲黄色と黒の縞模様のナガコガネグモは、手賀沼周辺では常連のクモです。



▲クスノキの果実が熟しはじめました。葉の上でアリに擬態したアリグモが活発に歩き回っていました。



▲クロウリハムシがカラスウリの葉を食べていました。決まって丸くかじってから円の内側の葉を食べます。



▲盆花ともよばれる季節の花のミソハギが咲いていました。



▲遊歩道沿いのエノキの果実も色づきはきめました。果実食の鳥にとって大切な食料源となります。

朝夕の残暑のきびしさが少しやわらぐ時間帯を選んで手賀沼遊歩道を散策すると、真夏とはちがった生き物たちの様子が見られ、季節の移ろいを実感することができます。

### August21日Saturday: 夏の植物観察

カテゴリ: General 投稿者: mochizuki

8月のてがたんは雨で残念ながら中止となってしまいました。

今月のテーマは「てがたん樹木検定・夏編」です。  
パンフレットはこちら

**【8月のテーマ】**  
**てがたん樹木検定・夏編**

案内人：竹本周平・福部一栄（鳥の博物館市民スタッフ）





▲宇賀沼の水辺に生えるメタセコイアの木。

身近な樹木には様々な種類があり、花をつける時期や実の大きさや形なども多様です。一見すると同じように見える葉っぱでも、よく見ると種類ごとに違いがあります。今日はてがたんコースで見られる代表的な樹木を観察し、それぞれの葉の違いを見てみましょう。

2021年8月14日（土）

車や自転車に注意しましょう。水田や私有地では、マナーを守って観察しましょう。

**見分け方のポイント**

- ・葉っぱの形は？
- ・縁はギザギザ？
- ・葉のつきかた
- ・葉の厚さ
- ・葉には毛がある？



**樹木検定 身近な木を5種覚えよう！**

<p>ツバキ</p>  <p style="font-size: x-small;">★葉が厚い・ツヤあり</p>	<p>ケヤキ</p>  <p style="font-size: x-small;">★鋸歯あり・互生</p>	<p>ナンテン</p>  <p style="font-size: x-small;">★羽状複葉・葉が尖る</p>					
<p>メタセコイア</p>  <p style="font-size: x-small;">★針形・縁がなめらか</p>	<p>カツラ</p>  <p style="font-size: x-small;">★丸い葉・対生</p>	<p style="text-align: right;">樹木検定 <small>樹木の名前を覚えてみよう！</small></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>①</td></tr> <tr><td>②</td></tr> <tr><td>③</td></tr> <tr><td>④</td></tr> <tr><td>⑤</td></tr> </table>	①	②	③	④	⑤
①							
②							
③							
④							
⑤							

葉っぱをじっくり観察することで身近な樹木を見分けてみよう、という内容を予定していました。

葉っぱは、一見同じ様に見えても様々な形があり、硬い葉や柔らかい葉、ギザギザの鋸歯(きょし)がある葉、毛の生えている葉など、観察し始めると奥深い世界です。

当日お話しする予定だった植物たちを少し紹介します。



▲カツラの木

カツラの葉は丸く、ハート形のような形をしています。また近くで匂いをかぐと、ふんわりと甘い香りがするのが特徴です。



▲キョウチクトウ

今の時期は白い花を咲かせます。葉は細長く、やや厚みがあり、ツルツルとした触り心地です。この植物は強力な毒を持つことが知られており、やや注意が必要な植物です。葉の表面などを触る分には問題ないのですが、葉を折って舐めたりすると中毒を起こします。

野外には食べられる野草と有毒植物、色々ありますので気をつけましょう。



#### ▲ヤブガラシの葉

蔓性の植物で、フェンスにからみつくなど身近によく見られます。ヤブガラシの葉は5枚が一箇所から生えているように見えますが、これは進化の中で元々1枚の葉が5つに分裂してできたもので、複葉と言います。



#### ▲ツユクサ

青い花を咲かせる低い草丈の植物で、道端のちょっとした空き地によく生えています。日本に古くからある植物で、万葉集にも「つきくさ」の名で詠まれています。

鳥の博物館から手賀沼までわずか50mほどですが、様々な植物を観察することができます。鳥と違って植物は逃げないので、行けば必ず見られるというのも植物観察の利点でもあります。手賀沼散歩の際にはこれらの植物にも目を向けて見てください。

August18日Wednesday: キレイ?怖い?大きなガがいました

カテゴリ: General

投稿者: someya

最近、雨の日が続きますね。雨が降ったと思えば、急に晴れたり、不安定な天気です。本日は風が強く、木がガサガサと音を立てて揺れています。博物館の通用口にオオミズアオがいました。風に煽られてやってきたのでしょうか。枯れ葉もたくさん落ちていました。



▲オオミズアオ（2021.8.18撮影）

大きさがわかるように手元にあったボールペン（長さ13cm）を置きました

オオミズアオはその名の通り、大きくて、きれいな水色のガです。毒はありません。よく似たオナガミズアオより、翅に丸みがあるのが特徴です。成虫の寿命は1週間程です。口が退化しているため、成虫はエサを食べません。その短い期間に交尾を済ませ、卵を産みます。

オオミズアオのように大きなガの仲間はフクロウのエサにもなります。鳥の博物館で観察を続けているフクロウの巣箱カメラにも、フクロウが大きなガを持ってきた姿が記録されています。



▲大きなガをくわえたフクロウ（2014.5.4撮影）

August15日Sunday: 9月の手賀沼散策の見どころ～てがたんのテーマより～

カテゴリ: [General](#)      投稿者: [muramatsu](#)

8月中旬になり、雨の日が続いていますね。  
博物館の自然観察会「てがたん」も今月は残念ながら中止になりました。  
来月は天気恵まれて開催できることを楽しみにしています。  
過去のとがたんのテーマから、一足早く9月の自然観察の見どころを予習してみ  
ましょう。

これまでの9月のテーマ一覧（中止になったものも含む）がこちらです。

- 2020 「生きものたちの「護身術」」
- 2019 「虫を狙う生きものたち」
- 2018 「地面の上の落とし物」
- 2017 「昔はいなかった生きものたち」
- 2016 「帰る鳥・来る鳥」
- 2015 「秋の虫」
- 2014 「原っぱ探検隊」
- 2013 「バッタと秋の花」
- 2012 「草原の生き物観察」
- 2011 「トンボとバッタ」
- 2010 「トンボとバッタを調べよう」
- 2009 「トンボとバッタをさがそう」
- 2008 「秋の生き物たち」
- 2007 「赤トンボと秋の虫」
- 2006 「鳥 田んぼの植物とトンボの観察」
- 2005 「鳥の群れ、虫の声、秋の七草」
- 2004 「群れる鳥と赤トンボ」

秋の昆虫の代表、トンボとバッタの観察をテーマにしたものが多いですね。  
てがたんコースで見られるトンボやバッタを捕まえて、種類やその特徴をじっく  
り観察  
しました。

**①てがたんコースのトンボたち**

●アカトンボの代表、オウアアカネとアキアカネを比べてみよう！




	オウアカネ	アキアカネ
体長	37～40mm	39～43mm
生息期	7～11月	7～11月
生息環境の特徴	平地、丘頂地の水田とその周辺	羽化後、夏期は山地へ移動し、9月頃に平地へ戻る
雌雄の見分け方	胸部にある2本の黒い線のうち、胸部にある1本目は平らで幅がある。オスは成熟すると頭、胸まで赤くなる個体がいる	胸部にある2本の黒い線のうち、胸部にある1本目の幅が、広がっている。オスは成熟しても膝まで赤くならない。
実際にスタンプしてみよう！		

●他に観察したトンボにチェックをいれよう！





2010年のてがたんパンフレット

てがたんコースでみられるバッタたち あられた生き物は  にチェックをいれよう

**バッタ**

バッタは種類が多く、その中でも代表的なものを紹介します。

●バッタは食料が豊富で、繁殖力が強い。繁殖地、繁殖地を多くと、ヒョウバッタと類似して多くを捕まえてみよう。

ケラも近縁種に分類される昆虫！

土の中で生活するケラは新しいバッタの仲間になる。地味や土に似ているが、足は短く、口もバッタと異なる。ヒョウバッタに似て、土の中から出てくる。

体長 30～35mm

**キリギリス**

キリギリスは種類が多く、その中でも代表的なものを紹介します。

●キリギリスは種類が多く、繁殖力も強い。繁殖地、繁殖地を多くと、ヒョウバッタと類似して多くを捕まえてみよう。

**コオロギ**

コオロギは種類が多く、その中でも代表的なものを紹介します。

●コオロギは種類が多く、繁殖力も強い。繁殖地、繁殖地を多くと、ヒョウバッタと類似して多くを捕まえてみよう。

2013年のてがたんパンフレット

9月は渡りをする鳥たちが移動を始める時期です。ツバメやオオヨシキリなどの夏鳥が少なくなり、コガモなどの冬鳥の姿が見られるようになります。またモズのように低地で繁殖していた鳥が標高の高い地域へ移動していきます。

## てがたんコースの鳥の渡り



**ツバメ** 夏鳥  
4月ごろやってきて、9月ごろ  
東南アジアへ渡り去る



▲日本で放されたツバメの渡り先



**オナカガモ** 冬鳥  
10月ごろやってきて、3月ごろ  
ロシアの繁殖地へ渡り去る



▲日本のオナカガモの渡り先



**モズ** 9月ごろやってきて、翌  
年春に同所で繁殖、そのあと高  
い標高の場所へ移動する



▲国内でのモズの移動

### 2016年のてがたんパンフレット

その他にキク科の植物の花も見られるようになり、秋が近づくのを感じる季節  
です。

手賀沼周辺の散策の際には、ぜひチェックしてみてください。

# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2021-07 >

日 月 火 水 木 金 土

1 2 3

4 5 6 7 8 9 10

11 12 13 14 15 16 17

18 19 20 21 22 23 24

25 26 27 28 29 30 31

## 過去ログ

あなたは現在、2021年Julyの過去ログをしています。

## July29日Thursday: 鳥の博物館周りの生き物たち

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [saito](#)

7月28日、博物館周りを散策した時の手賀沼の風景と見かけた生き物を紹介します。



▲夏空の手賀沼。

## 検索

検索

## ナビゲーション

[前の月](#)

[次の月](#)

[今日の投稿](#)

[過去ログ](#)

## カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)

[General](#)

[お知らせ](#)

[観察会](#)

[観察会下見](#)

[昆虫](#)

[植物](#)

## ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

## リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)

[google.co.jp](#)



▲岸辺には外来種が侵入し、ナガエツルノゲイトウ（白い花）とオオバナミズキンバイ（黄色い花）が繁茂しています。



▲岸辺の水面をオオヤマトンボがパトロール飛行していました。



▲目の前をカワセミが飛んで行きました。風切羽の換羽の進行具合から成鳥と考えられます。コバルトブルーの背の羽毛も換羽中でまだら状です。



▲遊歩道沿いの木陰では口元に赤みが残るハシブトガラスの幼鳥が涼んでいました。



▲人工の池の水辺から全身灰褐色のハクセキレイの幼鳥が飛び出しました。



▲ムクドリの幼鳥は日陰で羽繕いしていました。



▲遊歩道わきの土手から吹き上げる上昇気流に乗ってウスバキトンボが飛んでいました。産卵から羽化までわずか1ヶ月。世代を継ぎながら北上を続けますが、水温4℃以下でヤゴは死んでしまうため毎年片道切符の旅となります。



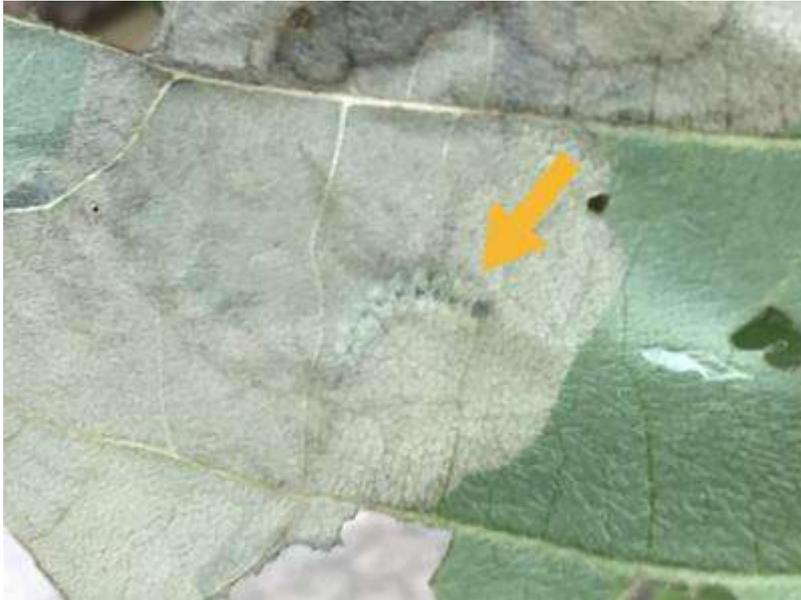
▲沼岸から少し離れた歩道では、植栽されたサルスベリの赤い花が咲いていました。百日紅（ひゃくじつこう）の異名の通り花期が長く、9月下旬まで花が見られます。



▲鳥の博物館の裏山に回るとマンリョウの花が咲いていました。



▲同じく裏山のクズの葉上ではクズノチビタムシが食事中でした。



▲クズノチビタマムシの幼虫（矢印の先）と蛹も見られました。

博物館周辺を少し散策するだけで、毎年変わらぬ生き物のくらしと時代によって変化していく生物相を観察することができます。鳥の博物館が行っている自然観察会「てがたん」では、こうした身近な自然の出来事を毎月観察しています。現在は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加人数を制限した完全申込制での実施となります。詳しくは、次のURLからご確認ください。

<https://www.city.abiko.chiba.jp/bird-mus/info2/tegatan/index.html>

### July22日Thursday: フクロウのヒナが巣立ちました

カテゴリ: General 投稿者: someya

先程、フクロウ巣箱のヒナが巣立ちました。ヒナはまだ余り上手く飛べませんが、エサのとり方や飛び方を親から教わり、2~3ヶ月後に親と離れます。無事に育ってくれることを祈るばかりです。

今シーズンは1羽のヒナが巣立ち、もう1つの卵は孵らないままでした。



巣立ち前のヒナ



ヒナが巣立った後の巣箱

July21日Wednesday: フクロウのひなに足環標識を行いました

カテゴリ: General 投稿者: odaya



▲足環をつけられたフクロウのひな。

昨日20日の夕方、ふくろうカメラを設置している巣箱のフクロウのひなを捕獲し、足環の装着を行いました。足環によって個体識別することで、ここで生まれたフクロウがどこかで見つかったときに、移動や寿命のデータを得る事が出来ます。この調査は山階鳥類研究所のみなさんと共同で実施しました。

フクロウのひなの捕獲と足環の装着については、昨年詳しくご紹介していますので、以下もご覧ください。

<http://strix.in/tegatan/index.php?itemid=439>

雛は、足環の装着、体重の計測などを行ったあと、巣箱に戻されました。あと数日で巣立ちそうですので、引き続き見守って頂ければ幸いです。

### July11日Sunday: フクロウの巣箱、子育て真っ最中

カテゴリ: General      投稿者: someya

フクロウの巣箱の近況です。ヒナは日に日に大きくなっています。顔もはっきりしてきました。母フクロウが巣箱から出ている時間も多くなってきました。ヒナが最近こんな姿勢で寝そべっていました。



ベター

時々あしを曲げ伸ばし

バタバタ

残念ながらもう一つの卵は孵らないままです。

ヒナの巣立ちの日が楽しみです。鳥の博物館のウェブサイトからフクロウの巣箱の記録をご覧ください。

### July 1日Thursday: フクロウの子育て～近況報告～

カテゴリ: General

投稿者: muramatsu

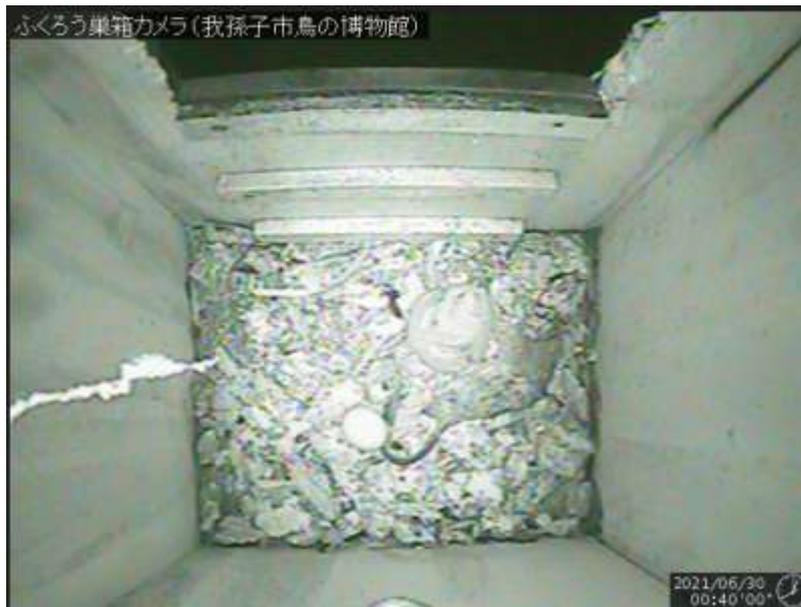
博物館で観察しているフクロウ巣箱では、今年は2つの卵の産卵が確認されました（5月23日1卵目確認、5月26日2卵目確認）。その後、6月23日に1卵目がふ化しましたが、残念ながら2卵目はふ化せず、今年は1羽のヒナの成長を職員一同見守っています！

今日の画像をしてみると、親鳥が運んできたツバメの姿が。



左下に見えるのがツバメ

昨日の画像では、おそらくクマネズミと思われる哺乳類が写っていました。



ヒナの隣に見えるクマネズミ  
ふ化しなかった卵の隣に長い尾が見える。

親鳥のメスはヒナがもう少し成長するまで、巣箱にとどまり世話を続けるので、この時期はオスがメスとヒナの分の餌を捕まえるのに大忙しです。

しばらくするとメスも外に出て餌を運んでくるでしょう。

順調に成長すれば、おそらく今月末あたりに巣立ちを迎えます。

ご興味ある方は、ぜひ博物館ウェブサイトから子育ての様子をご覧ください！

# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2021-06 >

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4 5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

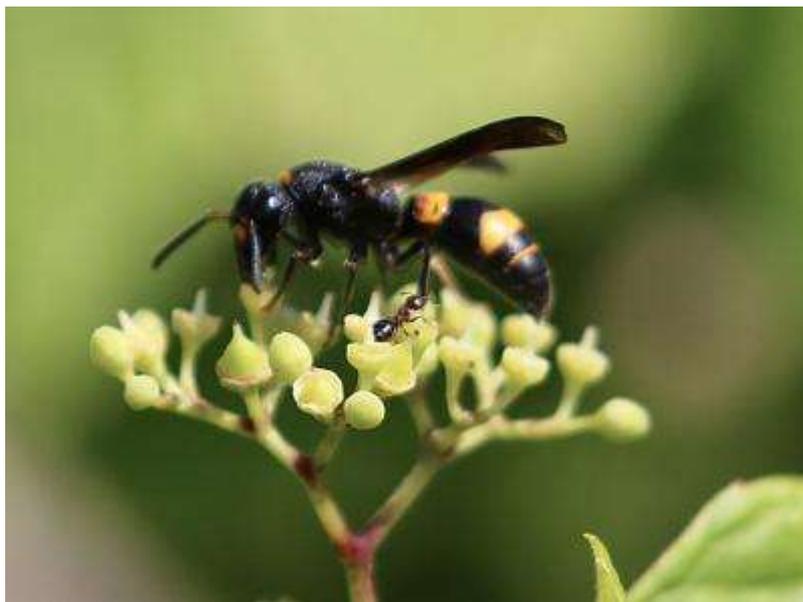
## 過去ログ

あなたは現在、2021年Juneの過去ログをしています。

### June23日Wednesday: 鳥の博物館周りの生き物たち

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [saito](#)

梅雨入りし夏至も過ぎ、いよいよ蒸し暑い夏がやってきます。この季節、人はバテバテですが昆虫は元気です。



スズバチがノブドウの花の蜜を舐めに来ました。雌しべのまわりに蜜が浸み出しています。

## 検索

検索

## ナビゲーション

[前の月](#)

[次の月](#)

[今日の投稿](#)

[過去ログ](#)

## カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)

[General](#)

[お知らせ](#)

[観察会](#)

[観察会下見](#)

[昆虫](#)

[植物](#)

## ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

## リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)

[google.co.jp](https://www.google.co.jp)



これがノブドウの咲いたばかりの花。雄しべはしばらくすると落ちてしまいます。



ノブドウと同じブドウ科のツタ（ナツツタ）の花。ブドウの仲間の花はみな構造が似ています。



オオスカシバがクチナシに産卵していました。



オオスカシバの卵。オオスカシバの幼虫はクチナシの葉を食べて育ちます。



クズの葉も昆虫に人気です。葉の縁に食べられたあとが残っています。



クズの葉を食べたのはコフキゾウムシのしわざです。



クズの茎に産卵するオジロアシナガゾウムシも見つかりました。



小さなマルカメムシもクズの葉が好きで、樹液を吸いに集まります。



手賀沼の水面では、ウチワヤンマが飛んでいました。



コシアキトンボはヨシの茎に止まっていた。



若いコシアキトンボの腰は濃い黄色です。この色は、やがて白っぽく変化します。



沼で産卵するチョウトンボも上空を舞っていました。



炎天下、ムクドリがずっとこの恍惚？のポーズで日光浴をしていました。忙しい子育て中のリラックスタイムのようにも見えます。羽毛についたハジラミ退治でしょうか。



スズメがコブハクチョウの羽毛を加えて運んでいました。巢材として使うのでしょうか。まだ子育てが続きます。

夏は草木がどんどん成長し、それを食べる昆虫も活発に活動します。多くの鳥たちは餌となる昆虫がたくさんこの時期、子育てに精を出します。

### June19日Saturday: 6月の手賀沼周辺の鳥たち

カテゴリ: **General**      投稿者: **odaya**

6月16日に、毎月行っている手賀沼の水鳥類の個体数調査を行いました。オオバンやカイツブリなどのヨシ原で繁殖する鳥たちは繁殖期の真っただ中ですが、ヨシが生長して茂っているため、少し発見しづらくなる時期でもあります。沼や周辺で見られた鳥たちの様子をご紹介します。



▲カイツブリがヒナを連れているのがみられました。よく見ると、くちばしの先には小さな魚をくわえており、ヒナに与えようとしています。



▲ここ10年ほど手賀沼ではほとんど見られなくなっていたコアジサシですが、昨年から数羽が繁殖期に見られるようになりました。近隣の繁殖地で少数が再び繁殖するようになったので、そこから餌を捕りに飛来しているのではないかと思います。

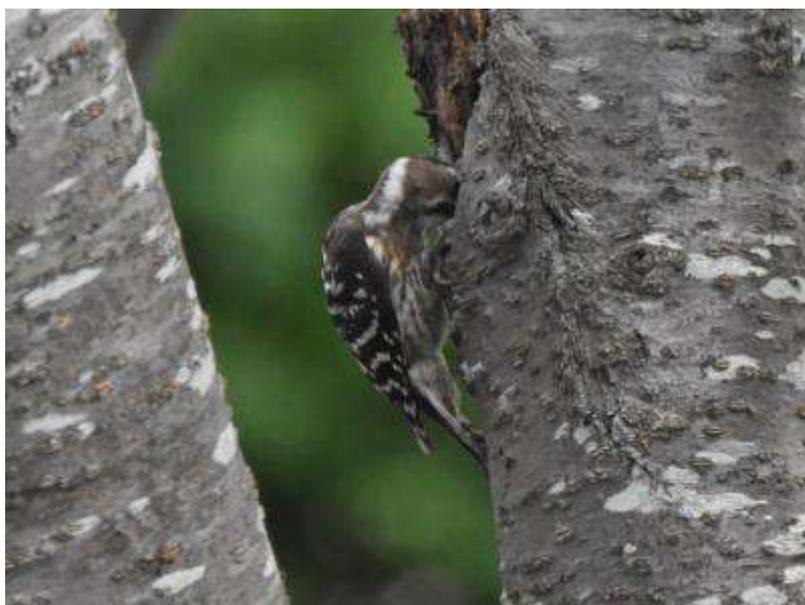
今回、写真を撮影できなかったのですが、博物館近くのやぶの中からガビチョウの鳴き声と姿が確認されました。今後、定着するかどうか注目したいと思います。

カウント調査中、後ろの林からにぎやかな小鳥の鳴き声が聞こえてきました。シジュウカラの仲間は「混群（こんぐん）」と呼ばれる複数の種が混ざった群れを作り、秋から冬にかけて観察しやすいと言われていています。実は、混群は1回目の繁殖で巣立った幼鳥を主体とする混群は6月ごろから見られるようになります。30羽ほどのシジュウカラ、エナガ、コゲラなどの群れがにぎやかに沼沿い

の林を通り過ぎていきました。



▲シジュウカラの幼鳥。サクラの葉についた小さいイモムシを食べていました。



▲コゲラの幼鳥。サクラの枝が折れて枯れている部分をつついて小さな昆虫を食べていました。



▲エナガの幼鳥。逆さになって枝にぶら下がりながら、アブラムシのなかまと思われる小さな昆虫を食べていました。

別の日ですが、博物館のまわりではヤマガラの幼鳥も見られました。手賀沼周辺では鳥たちの巣立ちシーズンを迎えてにぎやかになってきました。鳥たちの繁殖を邪魔しないように、自然観察を楽しんでいただければと思います。

## June12日Saturday: 戦国武将が用いた家紋と生き物たち

カテゴリ: [General](#)      投稿者: [mochizuki](#)

今日は「てがたん（手賀沼の自然観察会）」を開催しました。コロナ対策として事前申込制、少人数で行っています。

6月のテーマは「戦国武将の家紋を探そう！」でした。

鳥の博物館で戦国武将...?家紋...?と思われるかもしれませんが、実は家紋には鳥や植物など様々な身近な生き物がモチーフとなって出てきます。

今回のてがたんパンフレットはこちらです。

【6月のテーマ】  
**戦国武将の家紋を探そう！**  
 案内人：弘貴さと子（鳥の博物館市尻スタッフ）  
 望月みずき（鳥の博物館宇五員）



▲雀を用いた家紋(竹に雀)とスズメ。上杉謙信と伊達政宗が雀紋を使用していたとされる。

家紋は先祖代々の家系や家柄、地位を表す紋様です。戦国時代には合戦の際に敵味方を見分けるために武家の家紋を旗に掲げていたほか、武具や日用品にも使われていました。家紋には身近な生き物が数多く使われ、その由来も様々です。家紋に出てくる生き物を観察し、どうしてそれらがモチーフとなったのか考えてみましょう。

2021年6月12日（土）

車や自転車には乗らず、水田や私有地では、マナーを守って観察しましょう。

【身近な生き物がモチーフとなっている家紋一覧】

<p><b>【螺】</b>  <small>カタマ</small>              アゲハチョウなどを参考に作られた家紋。平家や旧井上家が使用。</p>	<p><b>【菖蒲】</b>  <small>シヨウブ</small>              ショウブは邪気払いの植物として縁起の良いものとされる。</p>
<p><b>【鶴】</b>  <small>ツル</small>              冠羽や腰の飾り羽がある繁殖期のサギがモチーフ。鶴桐紋は桐紋に似せた配置。</p>	<p><b>【桐】</b>  <small>キリ</small>              五七桐の家紋。キリの花・葉がモチーフ。豊臣秀吉や香取神社、日本政府紋章など。</p>
<p><b>【银杏】</b>  <small>イチョウ</small>              三つ银杏紋。イチョウは長寿のシンボルとして祭られる。日光東照宮などが使用。</p>	<p><b>【桐】</b>  <small>キリ</small>              尻合わせ三つ桐紋。葉と実の組み合わせや、葉を球形にしたものなどがある。</p>
<p><b>【燕】</b>  <small>ツバメ</small>              波の合組を飛ぶツバメを表す家紋。燕紋は武士に好まれたと言われている。</p>	<p><b>【家紋創作】</b>              今、戦国武将と同じ生き物を見ています。あなたはどんな家紋を作りますか？</p>

高野山香取神社イチョウの木



イチョウの葉は、葉脈が扇状にスジになっているのですが、家紋にもその模様が入っています。

香取神社のお賽銭箱には『五七桐(ごしちきり)』の紋章。家紋ではなく、神紋(しんもん)と呼ばれます。



桐の家紋にはいくつかのバリエーションがあり、五七桐紋というのは花が5つ・7つ・5つあるものを指す格の高い家紋です。戦国武将の豊臣秀吉がこの家紋を使用していました。他には五三桐紋という花の数が少ない家紋もあります。

桃山公園では桐の木を観察しました。



家紋と同じように、葉の上に花・実が立ち上がるようになっています。

さて、新しく家紋を作るとしたらみなさんはどんな家紋を作りますか？  
鳥博のシンボルであるオオバンをモチーフにちょっと作ってみました。



創作・鳥博家紋『大鷗上がり弁足紋』と『丸に三つ弁足紋』。オオバンの足は弁足といって木の葉状にヒレがついているので、家紋風に組み合わせてみました。

てがたん観察会ではおおよそ20種類ほどの『家紋』を観察することができました。

詳細は、後日てがたんレポートとして博物館HPに掲載します。どうぞお楽しみにお待ちください。

# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2021-05 >

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

## 過去ログ

あなたは現在、2021年Mayの過去ログをしています。

### May30日Sunday: フクロウの巣箱、2卵目を確認しました

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [someya](#)

鳥の博物館で観察を続けている「ふくろう巣箱」の最新情報です。5月26日に2卵目を確認しました。卵をあたためているフクロウ（メス）が巣箱を出た後、18時40分に2つ目の卵もあることが確認できます。

巣箱内の1日の動きを追うと、親は卵が均一にあたたまるように体勢を変えながら転卵する様子がうかがえます。

フクロウは卵から孵化するまでが約30日、ヒナから巣立つまでが約30日です。ヒナの姿が楽しみです。



#### ▲巣箱内の様子

中央に見える白い丸が卵

### May25日Tuesday: 速報！フクロウの産卵確認！

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [muramatsu](#)

それは先週の土曜日（5月22日）のこと。

出勤してフクロウの巣箱内に設置しているカメラの画像を確認すると、フク

## 検索

検索

## ナビゲーション

- [前の月](#)
- [次の月](#)
- [今日の投稿](#)
- [過去ログ](#)

## カテゴリ

- [全てのカテゴリ](#)
- [General](#)
- [お知らせ](#)
- [観察会](#)
- [観察会下見](#)
- [昆虫](#)
- [植物](#)

## ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

## リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)

ロウの姿が。

google.co.jp



これはもしかすると産卵するのか?!と一瞬期待がよぎりましたが、2時間ほどするとフクロウは姿はありませんでした。

「この時期に産卵はやはりないか」とすぐ諦めモードに。というのも、博物館ではこれまで10年以上フクロウの繁殖を観察していますが、産卵は3月から4月に確認しており、5月（しかも月末）というのは、可能性はまずないと決めつけていました。

しかし翌日（5月23日）。再びフクロウの姿が。



朝方から巣箱に滞在し、そのまま19時台に突入。あれ、これはひょっとすると、もしかして...



初卵確認！！

すみません、繁殖しない可能性が高いなんて前回のブログで書いてしまって...

理由は分かりませんが、こんなに遅い産卵は初めてです。

ちなみにこれまでで1番遅い初卵確認は2012年度で4月26日でした。今回の繁殖はそれよりも1ヶ月近く遅いので、餌動物やヒナの生育に変化があるかもしれません。順調に繁殖することを祈っています。2、3日以内に2卵目も確認できるかもしれません。

フクロウの巣箱内の画像は、博物館ウェブサイトの「ライブカメラ」から見ることができます（現在、動画の配信は停止しています）。

ご興味ある方は、ぜひご覧ください。

**May25日Tuesday: 2021年の手賀沼オオヨシキリ調査を実施しました！**

カテゴリ: General

投稿者: odaya



5月25日に、2021年の手賀沼オオヨシキリのカウント調査を実施しました。雄が最も活発にさえずるこの時期に、目立つ場所に出てきている雄の数を数え、手賀沼の環境の変化をモニタリングすることを目的に実施しています。

例年、この調査には我孫子野鳥を守る会、鳥の博物館友の会、鳥博市民スタッフなどのみなさんに参加していただいているのですが、今年は去年と同様に新型コロナウイルスの感染対策のため、博物館スタッフだけで手分けして行いました。



▲枯れたヨシの先に止まって大きな声でさえずるオオヨシキリの雄。

今回は、手賀沼内では合計48羽、手賀川では45羽のオオヨシキリのさえずっている雄を数えました。手賀沼内の数は、多かった昨年（88羽）よりもかなり減少し、この10年では2番目に少ない個体数となりました。手賀川は調査を開始した2012年以来最も少ない数になりました。囀るオオヨシキリの数は天候や人通りなどにも影響されやすいので、今回のカウント数が個体数の減少を反映したものであるかどうか、来年以降もモニタリングを継続していきたいと考えています。

### May19日Wednesday: 博物館周辺は外来植物で花盛り

カテゴリ: General 投稿者: saito

鳥の博物館から手賀沼遊歩道へ向かう50メートルほどの小道の端には、今、色とりどりの花が咲いています。その多くは日本の在来種ではなく、人為的に国内に持ち込まれた外来植物です。目に付く花をいくつかご紹介します。



ナガミヒナゲシ (ケシ科)

地中海沿岸原産のオレンジ色のこの花は、道路沿いに毎年確実に分布を広げています。熟した果実の中には、1,500個から2,000個の種子が収まっています、これが道端にこぼれ落ちて増えていきます。



ニワゼキショウ (アヤメ科)

小さな植物ですが、かがんでよく見ると6枚の花弁や二つ折りで茎をはさむ葉などアヤメ科の特徴が見られます。北アメリカ原産です。手賀沼遊歩道沿いを歩くと、芝生一面に広がっている場所が見つかります。



ユウゲシヨウ（アカバナ科）

マツヨイグサなどと同じアカバナ科の植物です。南北アメリカが原産地です。花の中をのぞくと花粉が糸を引いているのが分かります。蜜を吸いに飛来した昆虫の脚や体からみつき別の花の雌しべに確実に運ばれるための仕組みです。



ブタナ（キク科）

ヨーロッパ原産のこの花は、最初タンポポモドキと名付けられたそうでタンポポによく似ています。葉は地面にはりついたロゼット状で、長く上に伸びた茎の先に黄色い花を咲かせます。花期は長く、タンポポのような綿毛のついた種子を飛ばしてどんどん増えます。



コメツブツメクサ (マメ科)

ヨーロッパ原産の植物で、裸地の地表を黄色い絨毯で覆うように広がっていきます。



アメリカフウロ (フウロソウ科)

在来のゲンノショウコに似た植物で、乾燥した道端でも生育します。結実した種子を弾き飛ばすことのできる弾力のある果実の形は独特です。北アメリカ原産です。



#### チリアヤメ (アヤメ科)

どこからどのように侵入したのか詳しいことは分かりませんが、園芸用に輸入されたものが野外に逸出して広がった可能性があります。博物館周辺では昨年あたりから見られるようになった新顔です。

このほかにも、博物館周辺を探すと多くの外来植物が見つかります。今回紹介した植物は、新参者のチリアヤメ以外すべて環境省により生態系への影響を考慮すべき侵略的外来種にリストアップされています。外来植物の多さは、身近な自然がいかに人間活動の影響を大きく受けているかを示しています。今後の博物館周辺の外来種の動向が気になります。

#### May14日Friday: 婚姻色 (こんいんしよく) のサギたち

カテゴリ: General      投稿者: odaya

5月2日に行ったたがたんの下見の際に、手賀沼の岸沿いで餌を捕っているコサギを見つけました。よく見ると、普段見かけるコサギとは顔の雰囲気異なります。



▲眼（虹彩）の色が暗色で、眼先はピンク色をしています。



▲頭には2本の冠羽が伸びており、脚の指は少し赤みを帯びています。



▲参考：冬のコサギ（2月 手賀沼）。眼先は黄色く、虹彩も淡色。

サギ類の繁殖期にあたる春～初夏にかけての短い期間に、サギ類の皮膚が露出している部分は「婚姻色（こんいんしょく）」と呼ばれる色に変化します。コサギは、眼先や虹彩の色、脚の色が変化します。この変化は交尾前後のごく短い期間しか見られません。色の変化はサギの種ごとに異なります。



▲チュウサギでは、虹彩の色が赤く変化します。



▲ダイサギでは、眼先がエメラルドグリーンに変化します。

この時期に田んぼや沼沿いでサギ類の姿を見かけたら、普段と違う皮膚の色にも注目してみてください。

### May 9日Sunday: コチドリに会いました

カテゴリ: General 投稿者: someya

鳥「ピウ、ピウ、ピピピピピピー」、私「おっ！今年も会えました。」

毎年この声を聞くと季節の移り変わりを感じます。この声の主は夏鳥のコチドリです。手賀沼周辺でもコチドリを時々みかけます。

最近も我孫子近隣の市で、コチドリを見ました。飛び去っても、また同じ田んぼに入って採食するので、よく観察できました。口ばしをツンツンさせ、昆虫やミミズ類などを食べます。タタタタ...と走っては、急にとまり。また走ってはの繰り返し。見ていてあきません。



▲田んぼにコチドリがいました



▲目のまわりの黄色いリングが特徴



▲獲物を探しています。じーっ



▲狙いをさだめています



### May 9日Sunday: ミナミメダカ、産卵シーズン到来

カテゴリ: General 投稿者: someya

博物館の3階のベランダには手賀沼に生息している生物を展示した小さなコーナーがあり、魚・カメ・水草などを展示しています。

その中のひとつ、ミナミメダカは4月頃から産卵を始め、最近は安定的に卵が見られるようになってきました。卵は発生がすすみ、目や体の形がよくわかります。仔魚の誕生が楽しみです（仔魚はバックヤードで飼育しますのでご覧いただけません）。



▲メダカ目が確認できます



▲1枚目の写真と比べると透き通っていて、より最近に産み落とされた卵であることがわかります

### May 8日Saturday: サクラとアリの深い関係

カテゴリ: **General**

投稿者: **mochizuki**

春があっという間に過ぎ、日差しが強く暑い日も多くなってきました。

手賀沼沿いを歩いているとサクラの葉に小さなアリが歩いているのを見かけました。



葉の根元のコブの近くにアリがいるのが見えますでしょうか。



サクラの葉の付け根にはコブ状の蜜腺があり、アリはここから出る蜜を食べにやってきました。

アリは蜜腺から蜜を食べるほか、小さな虫なども食べてくれます。葉の蜜腺でアリを呼ぶことで、アリに葉っぱを守ってもらおう、というサクラの賢い生態戦略です。

これからの時期は昆虫が増えてくるので、ぜひ観察してみてください。

# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

&lt; 2021-04 &gt;

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

## 過去ログ

あなたは現在、2021年Aprilの過去ログをしています。

## April30日Friday: 5月の自然観察見どころ紹介 ～過去のがたんより～

カテゴリ: General 投稿者: muramatsu

いよいよゴールデンウィークが始まりますね。

昨年に引き続き、遠出をするのは難しい時世ですが、ちょっと近所を散策する時の参考に、5月の生き物観察の見どころを博物館の自然観察会「てがたん」のテーマからご紹介します。

これまでの5月のテーマ一覧（中止になったものも含む）がこちらです。

- 2020 「ツバメの子育て」
- 2019 「あびこの自然の「音風景」」
- 2018 「鳥の子育て」
- 2017 「鳥の子育て」
- 2016 「渡りと繁殖」
- 2015 「緑色の季節」
- 2014 「命のリレー」
- 2013 「鳥のさえずりと子育て」
- 2012 「鳥の子育て」
- 2011 「鳥のさえずりと子育て」
- 2010 「鳥の子育て」
- 2009 「鳥のさえずりと子育て」
- 2008 「鳥の子育て」
- 2007 「鳥の子育て」
- 2006 「鳥の子育て」
- 2005 「鳥の繁殖活動」
- 2004 「ロングタンポポ競争」

圧倒的に多いテーマは鳥の子育て！

5月は鳥の繁殖期の真っ只中。縄張り争い、求愛、巣材運び、ヒナへの給餌など活発に行動するので、人前に姿をあらわすことも多く、観察しやすい季節です。

## 検索

## ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

## カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 観察会
- 観察会下見
- 昆虫
- 植物

## ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

## リンク

我孫子市鳥の博物館  
google.co.jp



③鳥の繁殖行動を探そう

4月から5月の手賀沼周辺では、こんな鳥たちの繁殖シーンがみられます。

	
モズのヒナへの給餌(きゅうじ)	ヒナ運れのコブハクチョウ
	
ハシボンガラスの営巣(えいそう)	ホオジロのさえずり
	
ツバメの巣材集め	ムクドリの子(つがい)

メモ欄に観察した繁殖行動を書き込もう

2015年5月のてがたんレポート

てがたんコースではツバメ、スズメなど人家周辺で子育てする鳥の他に、田んぼ周辺で子育てするキジやカルガモ、手賀沼で繁殖する水鳥たちの姿を観察しています。

④博物館のまわりて観察された鳥たちの巣

		
コブハクチョウ 手賀沼のヨシ原	カルガモ 田んぼの畦や水辺の草地	キジ 田んぼや畑など開けた草地
		
ツバメ 人家や建物の軒下の壁	スズメ 屋根のすき間や壁、木の洞	ハクセキレイ 建物の鉄骨や軒下のくぼみ

●他の鳥たちはどんな場所に巣をつくるのか考えてみよう



コブハクチョウ (水辺)  
 人家周辺 (ツバメ, スズメ, ハクセキレイ)  
 草地 (カルガモ, キジ)

## 2013年5月のてがたんレポート

また、博物館では我孫子市内の森にカメラ付きの巣箱を設置してフクロウの子育てを観察しており、この時期は巣箱内の様子を館内のモニターで見ることができます。

鳥の博物館手賀沼定例観察会

**5** [5月のテーマ] 緑色の季節

案内人: 栗谷浩美、渡田知子(鳥の博物館北スタッフ)

新緑の季節は様々な生き物が活発に動き始めます。鳥は子育ての時期です。博物館で観察しているフクロウの巣箱では、ヒナが3羽生まれました!



「5月1日のヒナの様子、8日後はどのくらい成長しているかな?」

**5月は愛鳥週間です!**

5月10日から16日は愛鳥週間です。愛鳥週間が始まるきっかけとなったのは、アメリカのBird Day(5月4日)で、日本では1947年の4月10日に「ドデー」が定められました。その後、日本の北の地域では、まだ4月は積雪があることから、一ヶ月ずらした5月10日に変更されました。1950年からは5月10日から16日までの一週間となり、現在の愛鳥週間が始まりました。

2015年5月9日(土)

車や自転車に注意しましょう。水田や私有地では、マナーを守って観察しましょう。

## 2015年5月のてがたんレポート

フクロウは今年も巣箱に時々やってきていますが、残念ながら繁殖する兆しは今のところありません。この時期に産卵や抱卵が確認できないと、おそらく今年には繁殖しない可能性が高いです。来年はフクロウの子育てする姿を皆さんにご覧いただけることを楽しみにしています。

## April 21日 Wednesday: 2021年のオオバン調査を実施しました!

カテゴリ: General 投稿者: odaya



4月20日の午前中に、毎年実施している手賀沼のオオバン調査を実施しました。例年は、我孫子野鳥を守る会、鳥の博物館友の会、鳥博市民スタッフなどのみなさんに参加していただいているのですが、昨年に引き続き、新型コロナウイルスの感染対策のため博物館スタッフ5名で手分けして行いました。



▲ヨシ原沿いを泳いで移動するオオバン

今回は、合計88羽、13つがいのオオバンがカウントされました。個体数はここ数年回復傾向だったのですが、今回はこの10年間では2番目に少ないカウント数となりました。繁殖個体でないオオバンが含まれている可能性があり、その割合が年々増加している可能性もありそうです。年によってその割合が大きく異なると、全体のカウント数にも影響するということが考えられるので、今後調査時期や方法の設定などを検討したいと思います。

オオバンの個体数カウントと併せて、コブハクチョウの生息状況の調査も行いました。手賀沼の全周で合計37羽が確認され、6か所で営巣（いずれも抱卵中）が

記録されました。昨年から手賀沼内では個体数の少ない状況が続いていますが、下流側で給餌が行われている地点では数が増えているので、下流側に移動している可能性があります。

## April16日Friday: 自然観察会「てがたん」を再開しました！

カテゴリ: General

投稿者: odaya



▲観察会のようす。ソーシャルディスタンスを確保して実施しました。

我孫子市鳥の博物館が主催する自然観察会「てがたん」は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、2020年3月から中止していました。このたび、2021年4月より少人数・申し込み制に変更して再開することになりました。



▲手賀沼沿いのヨシ原のようす。あちこちで「バシャッ」というコイやフナ類が散乱するときに出す水音が聞こえました。

4月10日に、6名の参加者のみなさんとともに1時間ほど手賀沼沿いを歩きました。4月のテーマは「鯉の恋の季節」でした。風がなく穏やかな天候だった

め、コイやフナ類の「のっこみ」がヨシ原のあちこちで観察できました。

写真は撮影できませんでしたが、遊歩道沿いのサクラで2羽で行動しているエナガのうち1羽の尾羽が曲がっていました。エナガはコケや鳥の羽毛を使って丸いドーム状の巣を作るのですが、卵や生まれたばかりのヒナを温めるときに巣に長時間入っていると、その長い尾は曲がってしまいます。そのため、曲がった尾羽を持っている個体は、繁殖している成鳥であることが簡単に確認できるのです。繁殖期にエナガを見つけたら尾羽の曲がり具合を確認してみてください。



▲参考：体に対して長い尾羽をもつエナガ。



▲参考：桜に作られたエナガの巣。

近日中に、博物館ウェブサイトにもパンフレットとレポートを掲載予定ですので、楽しみにお待ちください。

5月以降も、当面は同様の少人数・申し込み制での実施としたいと思います。各

月の1日から電話にて申し込み（定員10名・先着順）を開始いたします。ご理解  
とご協力をお願いいたします。

### April16日Friday: 速報！ビワコカタカイガラモドキ幼虫が孵化

カテゴリ: General

投稿者: saito



2月2日付の当ブログ「冬季限定！ヨシ原食堂のカイガラムシ定食」で紹介したビワコカタカイガラモドキ（カメムシ目カイガラムシ上科カイガラモドキ科）の幼虫が孵化しました。枯れたヨシの葉鞘の中に付着したメスを紹介しましたが、その体から幼虫が出てきました。写真はシャーレの中に保存したメスの体から出てきたものです（残念ながら乾燥してしまっていますが...）。

手賀沼湖畔では、ヨシの新芽が伸び始めました。枯れたヨシから新世代のヨシに幼虫が移り始めている頃かも知れません。

ヨシ原からは、まだ冬鳥のオオジュリンの声が聞こえています。

### April10日Saturday: 春と冬の鳥たち

カテゴリ: General

投稿者: mochizuki

桜が散り始め、新緑が美しい季節になってきました。

手賀沼遊歩道沿いを歩いていると、ケンケン！という威勢の良いキジの声。菜の花の周りを歩いているところを見つけました。



キジは4月頃から繁殖期に入り、茂みの中の地面に巣を作り卵を生みます。5月頃にはヒナ連れの姿も見られるでしょうか。

ウグイスもさえざり始め、すっかり春模様ですが、一方でまだ冬鳥のツグミやオオジュリンなども見られています。冬鳥は例年5月初め頃には北に帰ってしまうので、観察するなら今がチャンスです。



ヨシにとまるオオジュリン

オオジュリンはヨシの中に隠れているピワコカタカイガラモドキという昆虫を食べています。カイガラムシについては過去の記事が詳しいので[こちら](#)をご覧ください。



# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

&lt; 2021-03 &gt;

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

## 過去ログ

あなたは現在、2021年Marchの過去ログをしています。

### March31日Wednesday: 手賀沼親水広場、桜満開

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [someya](#)

手賀沼遊歩道沿いでは桜がたくさん見られます。ソメイヨシノを中心に、他には八重桜も見られ、まだまだ桜を楽しめる季節が続きます。

手賀沼親水広場内の遊歩道では、只今ソメイヨシノが満開。ピークは過ぎ、少しずつ散り始めました。ソメイヨシノはエドヒガンとオオシマザクラの種間雑種です。桜と言えばソメイヨシノを思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。

アーチ状に伸びた枝の下を歩くだけで気分は最高です。ヒヨドリやエナガの姿もみかけました。「密になりそう」そんな心配もあるかと思いますが、見る曜日や時間を工夫して、季節の移り行く様子を肌で感じましょう。



#### ▲2021.3.31撮影

ソメイヨシノが見ごろをむかえています

## 検索

## ナビゲーション

[前の月](#)  
[次の月](#)  
[今日の投稿](#)  
[過去ログ](#)

## カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)  
[General](#)  
[お知らせ](#)  
[観察会](#)  
[観察会下見](#)  
[昆虫](#)  
[植物](#)

## ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

## リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)  
[google.co.jp](https://www.google.co.jp)



▲2021.3.31撮影

きれいな桜の下を歩きませんか



▲2021.3.19撮影

約2週間前は殆どがつぼみでした

March31日Wednesday: 後ろ姿の正解はっぴょう

カテゴリ: General 投稿者: someya

2月21日の「とりはく自然通信」内でクイズを出しました。  
この後ろ姿は誰でしょうか。



2021.2.10撮影

正解はじゃん！「モズ」です。みなさん、当たりましたか？



2021.2.10撮影

振り向いた写真はみごとにピントがずれました。これはオスのモズです。

モズはオスとメスの違いが見た目でわかりやすい鳥です。わかりやすい特徴を見比べてみましょう。



2019.2.23撮影

写真右がオス、左がメスです。オスは目の部分にある黒い線がはっきりしているのに対して、メスは余りはっきりしていません。翼を見て下さい。オスの翼には白い斑があり、メスにはありません。

鳥の名前だけでなく、特徴も覚えると鳥を見るのが楽しくなります。次回のクイズもお楽しみに！

### March20日Saturday: 春の手賀沼周辺の見どころ紹介 ～てがたんのテーマ～

カテゴリ: General 投稿者: muramatsu

3月も後半になり、春らしい暖かい日が多くなってきましたね。道端では春の花が咲きはじめ、植物の観察が楽しい季節です。私は昨日、今年初めてツバメを見ました。鳥たちが子育てに忙しくなる季節も、もうすぐそこです。

今日は博物館で開催している自然観察会「てがたん」で春にどんなテーマの観察会を行っているのかをご紹介します。ご自身で手賀沼周辺を散策する際の参考になれば幸いです。

これまでの4月のテーマ一覧（中止になったものも含む）がこちらです。

- 2020 「鯉の恋の季節」
- 2019 「鳥のプロポーズ」
- 2018 「"春限定"の自然観察」
- 2017 「今だけ！春限定の自然観察」
- 2016 「あびこの自然景観」
- 2015 「春の花」
- 2014 「てがたん10周年記念」
- 2013 「桜に集う鳥たち」
- 2012 「桜に集う鳥たち」
- 2011 「桜と春の花」

- 2010 「桜に集まる鳥たち」
- 2009 「外来生物と春の花」
- 2008 「春の草花を見よう」
- 2007 「桜に集まる鳥」
- 2006 「春をさがそう」
- 2005 「桜に集まる鳥たち」
- 2004 「田んぼに集まる鳥たち」

やはり春の代表的な花、桜をテーマにしたものが多いですね。  
手賀沼沿いには桜並木が続いており、植えられている品種数は10以上にのぼります。八重桜もいくつかあり、過去のがたんではコースで見られるものを紹介しました。



2013年4月のがたんパンフレット

また、てがたんでは桜だけでなく、そこに集まる鳥の蜜や花芽の食べ方にも注目して観察しています。メジロやヒヨドリは筆のような舌をうまく使って食べますが、スズメやコイカルなどは萼(がく)のあたりからちぎったり、穴を開けて食べることが多いです。



## March10日Wednesday: 春の谷津田

カテゴリ: **General**投稿者: **saito**

鳥の博物館では、3月14日（日）にあびこ自然観察隊「春の谷津田観察会」を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。3月9日、観察会を予定していた岡発戸・都部の谷津田を半日散策してみました。その時、目に止まった谷津田らしい風景や春らしい生き物のほんの一部を写真で紹介します。

これを見て谷津田の景観と生き物に興味を湧いた方は、コロナ対策を十分にとって、ソコ散策をしてみたいはいかがでしょうか。かつての営農形態の面影が残る谷津田は、昭和30年代にタイムスリップしたかのような気分も味わえます。

JR常磐線東我孫子駅から歩いて5分程の場所です。我孫子市で「谷津ミュージアム」として散策路を整備していますので、安全に歩くことができます。ゆっくり歩いて約2時間のコースです。

### ↓場所URL

<https://goo.gl/maps/pfMg4hN9RCpYmuJy7>

### ○谷津田の景観



谷津田に足を踏み入ると、春告鳥とも呼ばれるウグイスのさえずりがさかんに聞こえてきます。取り囲む斜面林がついたての役割を果たすため、市街地から隔離された別世界の谷津田の景観が味わえます。

### ○谷津田を彩る春の花



陽だまりの畦はホトケノザで覆われていました



スミレの中で一番早く開花するアオイスミレ



日の当たる斜面にはタチツボスミレも咲いていました



樹の花では早春に一早く咲くコブシ



‘ソメイヨシノ’の花芽もふくらみ桜の開花間近！



ウグイスカグラの赤い花も咲いていました



ヒサカキの花からは独特の香りが漂い春の訪れを感じさせます

○春の谷津田の生き物たち



田んぼの水たまりに産みこまれたアカガエルの卵塊



アカガエルのオタマジャクシもみられました



田んぼの水面を走るキクヅキコモリグモ

○谷津田で見られた鳥たち



群れていた冬鳥のカシラダカ



冬鳥のアオジも姿を現しました



イヌシデの樹上でさえずる冬鳥のビンズイ



アカマツの果実を足で抑えてつつき割るヤマガラ



オオブタクサの枯れた茎で餌をさがすコゲラ



田んぼで採食するハシボソガラス



たくさんのドングリをのど袋につめて飛ぶハシブトガラス

(この日の谷津田で確認できた鳥)

キジ、カルガモ、キジバト、ヒクイナ、トビ、オオタカ、コゲラ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、シロハラ、アカハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ



岡発戸・都部の谷津田では、これから多くの鳥がさえずりはじめ、草木の花が次々に咲き出します。チョウをはじめ昆虫の数も増えてきます。谷津田での観察のルールを守ってぜひお楽しみください。

March 6日Saturday: コミミズクの食べたもの

カテゴリ: General

投稿者: odaya



▲今回調べたペリットの落とし主のコミミズク。

手賀沼の東側に広がる水田地帯には、コミミズクが数羽渡来しています。コミミズクは日本では冬鳥として渡来する中型のフクロウの仲間です。他の日本産のフクロウの仲間とは異なり、夕方の明るい時間から活動することがあるのが特徴です（主な活動時間は夜間です）。

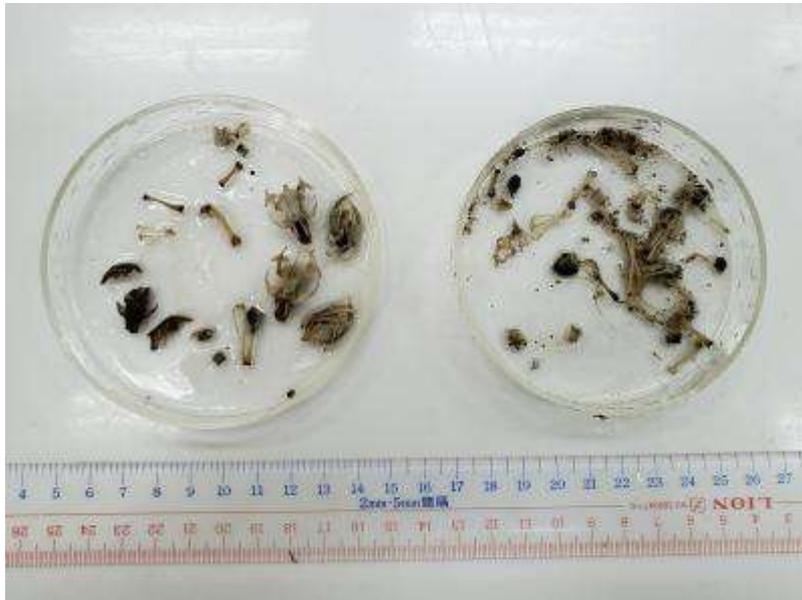
先日、水田の畔で休んでいる個体を遠くから観察していると、突然苦しそうな表情になり、オエッとペリットを吐き出すのが見えました。ペリットとは、食べた餌のうち、消化できない骨や毛などをまとめて吐き出すものです。

真っ暗になり、コミミズクが狩りに飛び去ってから拾いに行ってみると、長さが7cmくらい、太さが2cmくらいある大きなペリットを見つけました。何を食べているのか確かめるため、博物館に持ち帰って調べてみました。



▲拾ったコミミズクのペリット。

ペリットは一見して灰色で、細かい灰色の毛からなっていました。丁寧にほぐして洗ってみると、3頭分のネズミの頭骨が出てきました。大きいものが2つ、小さいものが1つで、違う種類かとも思ったのですが、ネズミの頭骨からの同定に詳しい学芸員の村松さんによると、いずれもハタネズミではないかとのことでした。



▲ペリットから出てきたハタネズミの骨。



▲ペリットから出てきた3頭分のハタネズミの頭骨。

ハタネズミは田んぼや畑などの開けた環境に生息するネズミの仲間で、これまでの研究でもコミミズクの主要な餌であることがわかっています。複数の個体が定着している手賀沼周辺の水田は、きっとネズミの数が多く、コミミズクにとって良い餌場になっているのでしょうね。

\*コミミズクを観察する際には、農家の作業の邪魔にならないような場所に駐車しましょう。また、飛び立ったコミミズクを追いかけないよう、注意しま

しょう。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | [トップページに戻る](#) | Since 15,Mar.2008

# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2021-02 >

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28						

## 過去ログ

あなたは現在、2021年Februaryの過去ログをしています。

## February26日Friday: 早春の草花

カテゴリ: 植物 投稿者: mochizuki

まだ肌寒い日が多いですが、外を散歩していると春を感じられる草花がいくつか咲いていました。



オオイヌノフグリ

道端に青く小さい花が咲いていたらまずこの花といって良いでしょう。

## 検索

検索

## ナビゲーション

前の月

次の月

今日の投稿

過去ログ

## カテゴリ

全てのカテゴリ

General

お知らせ

観察会

観察会下見

昆虫

植物

## ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

## リンク

我孫子市鳥の博物館

google.co.jp



ナズナ

若葉は春の七草にも使われます。別名ぺんぺん草としても有名ですね。



ヒメオドリコソウ

葉に細かい毛が生えていて、さわるとふわふわしているのが特徴です。見つけたらぜひさわってみてください。



ホトケノザ

上の2種はどちらもシソ科の花で似ていますが、ヒメオドリコソウは葉の下に隠れるように花を咲かせるのに対してホトケノザは葉の上に飛び出すように花が咲く点で異なります。

花の名前を覚えると道歩きが楽しくなりますし、季節の移り変わりがよく分かります。

今回ご紹介した花は道端に生えているので探してみてください。

### February21日Sunday: この後ろ姿は誰？

カテゴリ: General 投稿者: someya

手賀沼遊歩道を歩いているとこんな鳥に出会いました。

翼の白い斑が特徴です。木の枝先やとがったものに捕らえた獲物を刺す「はやにえ」でも知られています。この後ろ姿は誰でしょうか。答えはまたの機会に紹介します。答えを引っ張る程ではない身近な鳥です。



## February21日Sunday: ビンズイを見つけました (2021.2.10)

カテゴリ: General 投稿者: someya

先日、手賀沼水面にどんな鳥がどのくらいいるのか、月例の調査を行いました。手賀沼遊歩道を歩いていると、マツが数本ある辺りから「ツィーツィー」と鳥の声が聞こえてきました。

声の主はビンズイでした。非繁殖期は平地の林（マツ林など）を好み、地面で採餌していることが多く、ぱっと見た感じ姿が似ているタヒバリは、田んぼや河原で見かけることが多く、両者は生息環境が異なります。ビンズイはセキレイの仲間で、ちょこちょこと歩き、尾を上下に動かします。

しばらく観察したいところでしたが調査の途中だったため、短時間の観察にして、次の調査ポイントにむかいました。またね。





February13日Saturday: 気になる食材を見つけました。

カテゴリ: General      投稿者: muramatsu

先月、手賀沼の水鳥調査中に外来水生植物駆除の作業船を見かけました。





2021年1月20日撮影

今月の調査で同じ場所に行くと、こんな状態に。  
こんなに水面がすっきりした手賀沼を見るのは何年ぶりだろうか。



2021年2月10日撮影

8年前の同じ場所で撮影したのが、こちら。水面がかなり覆われていました。



2013年7月18日撮影

手賀沼には特定外来生物のナガエツルノゲイトウやオオバナミズキンバイが繁茂しており、以前から市民団体の方たちが状況観察や駆除作業を続けています。昨年からは千葉県が試験的に機材を導入した駆除を始めていました。今後の動向に注目です。

<http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/bloghakunchu6/p055533.html>

(柏市のウェブサイトです駆除作業について紹介しています)

駆除される外来生物については、ブルーギルなどのように食用利用に触れられることがあります。ナガエツルノゲイトウはどうなのでしょう。調べていたら印旛沼で開催された印旛沼流域環境・体験フェアでナガエツルノゲイトウのスープ試食の記事を発見！ぜひ食べてみたいです。

## February 2日Tuesday: 冬季限定！ヨシ原食堂のカイガラムシ定食

カテゴリ: **General**      投稿者: **saito**

冬枯れのヨシ原の景色は一見寂しそうですが、よく見ると案外にぎやかです。手賀沼遊歩道を散策すると、いろんな小鳥がヨシの茎をつついて採食する姿が見られます。



冬枯れのヨシ原



オオジュリン



シジュウカラ



スズメ



ウグイス



メジロ

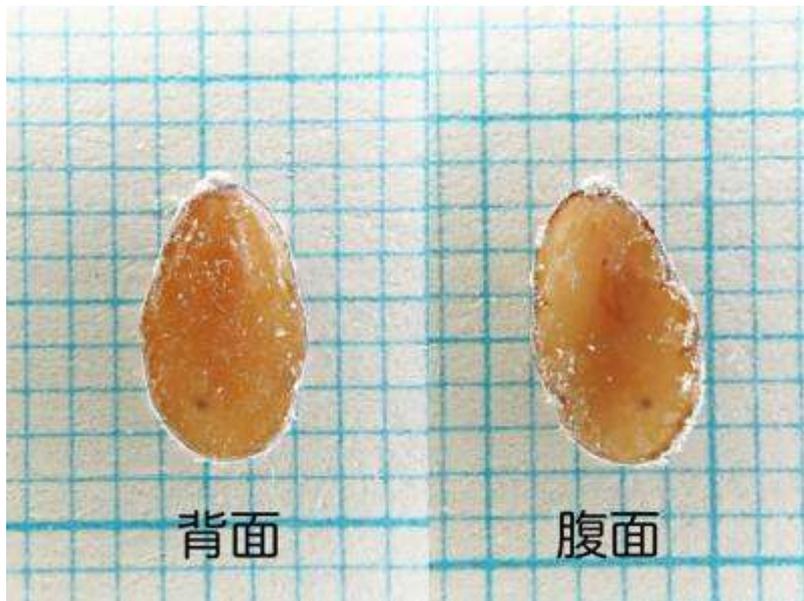


エナガ

鳥が食べているのはカメムシ目カイガラムシ上科カイガラモドキ科のビワコカタカイガラモドキのメス。試しに枯れたヨシの茎の皮（葉鞘）をいくつか剥いてみると、その姿が見つかるはず。



ヨシの葉鞘の中で越冬するビワコカタカイガラモドキのメス



ビワコカタカイガラモドキのメスの背面と腹面の拡大（脚は無く昆虫とは思えない姿。ヨシの茎から吸った樹液からつくられた白い蠟状の物質が縁に付着している。）

ヨシの茎に固着生活するメスに脚はありません。この姿で越冬し、夏になると体の中から幼虫が孵化し出てくるのだそうです。

ぜひ、夏になってヨシの茎を歩き回る雌雄の幼虫の姿を見てみたいものです。どんな姿をしているのか、見つけたらまたこのブログに写真をアップします。

# とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2021-01 >

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

## 過去ログ

あなたは現在、2021年Januaryの過去ログをしています。

### January28日Thursday: もっと知りたいユリカモメ

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [odaya](#)



▲ユリカモメの成鳥冬羽（12月）

1月のてがたんのテーマは「もっと知りたいユリカモメ」でしたが、残念ながらこれまでに続き中止となってしまいました。

今回は、手賀沼を代表する冬鳥の一つであるユリカモメについて、少し掘り下げてご紹介したいと思います。

ユリカモメは、日本で普通にみられるカモメの仲間では最も小さな鳥で、ハトより少し大きいくらいのサイズです。日本には冬鳥として渡来し、関東地方では10月ごろから4月ごろまで見ることができます。他の多くのカモメ類と異なり、海から離れた内陸の沼や河川でも普通に見られます。手賀沼では、沼の水鳥への給餌が行われている場所や、広い水面で餌をとっているのがみられます。下沼の東側の開放水面はねぐらになっており、夕方に集まってくる群れがみられますが、今年は例年に比べてその数が少ないようです。

## 検索



## ナビゲーション

- [前の月](#)
- [次の月](#)
- [今日の投稿](#)
- [過去ログ](#)

## カテゴリ

- [全てのカテゴリ](#)
- [General](#)
- [お知らせ](#)
- [観察会](#)
- [観察会下見](#)
- [昆虫](#)
- [植物](#)

## ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

## リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)

ユリカモメは、冬には全身白っぽく見えますが、翼は淡い灰色をしており、先端だけが黒い模様です。成鳥では嘴と脚が赤く、目の後ろに黒い斑があるのが特徴です。一方、前の夏に生まれた幼鳥は、嘴と脚がオレンジ色で、尾羽の先端に黒い帯があるのが特徴です。脚と嘴の色と尾羽の特徴を併せれば、その年生まれかどうかをほとんどの個体で見分けることができます。

google.co.jp



▲ユリカモメの幼鳥（12月）

ユリカモメの頭は、3月の終わりごろから黒い夏羽に生え変わり、同時期に脚と嘴の色も黒みが強くなります。このころに北の繁殖地に向けての渡りが始まり、手賀沼では4月の下旬にはほとんど見られなくなります。



▲成鳥夏羽に換羽中のユリカモメ（右と左端、4月）。中央の幼鳥は頭が黒くなっていない。

日本に渡ってくるユリカモメの繁殖地は、標識調査によって調べられてきました。ロシア極東地域のカムチャッカ半島にある繁殖地で色足環を標識された個

体が、日本各地で見つっています。手賀沼では、東京都内や千葉縣市川市で色足環を装着された個体が時々見つっていて、東京湾周辺で越冬している群れとの行き来がかなりあるようです。ユリカモメの足環の回収記録は以下のウェブサイトから見るすることができます。

[http://www.biodic.go.jp/birdRinging/atlas/Larus\\_ridibundus/Larus\\_ridibundus\\_wamei.html](http://www.biodic.go.jp/birdRinging/atlas/Larus_ridibundus/Larus_ridibundus_wamei.html)



▲色足環を標識されたユリカモメ（12月）

このような色足環のついたユリカモメを見つけたら、以下のウェブサイトに記載のある連絡先にお知らせいただくと、渡りや移動、寿命に関する情報が集まります。

ぜひご報告をいただければ幸いです。

[http://birdbanding-assn.jp/J05\\_color\\_ring/yuri.htm](http://birdbanding-assn.jp/J05_color_ring/yuri.htm)

### January22日Friday: 何を食べているの？

カテゴリ: General      投稿者: mochizuki

冬でも晴れている日は日差しが暖かく散歩をしていて気持ちがいいですね。

鳥博から少し足をのばして手賀沼公園に行ってみると、オナガガモやオオバンが出迎えてくれました。



一見なにもなさそうな草地ですが、ここに見えるだけで3種、写真に写っていないところにもう1種類います。

見ていると彼らは一生懸命何かを食べています。何を食べているのでしょうか？



我孫子市の市の鳥でもあるオオバンは、草の葉をくちばしで器用についばんで食べていました。



オナガガモ(雌)はくちばしで草の根ごと引きちぎって、草全体を食べているようです。



ドバトは砂利の小道で小石をつついて食べていました。小石は食べても栄養にならないのですが、実はとても大事な役割を果たしています。

ハトを含め鳥には歯がありません。人は何か固いものを食べる時歯で噛み砕くことができますが、鳥は筋胃と呼ばれる胃で食べ物をすりつぶしています。(余談ですが、焼き鳥屋で売っている砂肝は筋胃のことです)

ドバトは木の実など固いものをよく食べるため、時々小石と一緒に食べることで木の実をすりつぶし易くしています。



最後に、同じ草地の近くにいたツグミ。ツグミは昆虫類をよく好んで食べます。草地の中には、冬でもコガネムシの幼虫などが隠れているため、上手く見つけて食べていました。

一見何も食べ物がなさそうな草地に見えますが、鳥たちはそれぞれ食べ物を選んで食べている様子が観察できました。手賀沼を散策する際には、鳥たちが何を食べているかにも注目してみてください。

### January17日Sunday: 手賀沼から見た富士山と花火～コロナ退散！～

カテゴリ: General      投稿者: someya

冬は特に富士山がよく見えますね。みなさんの身近な場所にも、おすすめスポットがあるかと思います。手賀沼からも富士山が見えます。どこにあるかわかりますか。

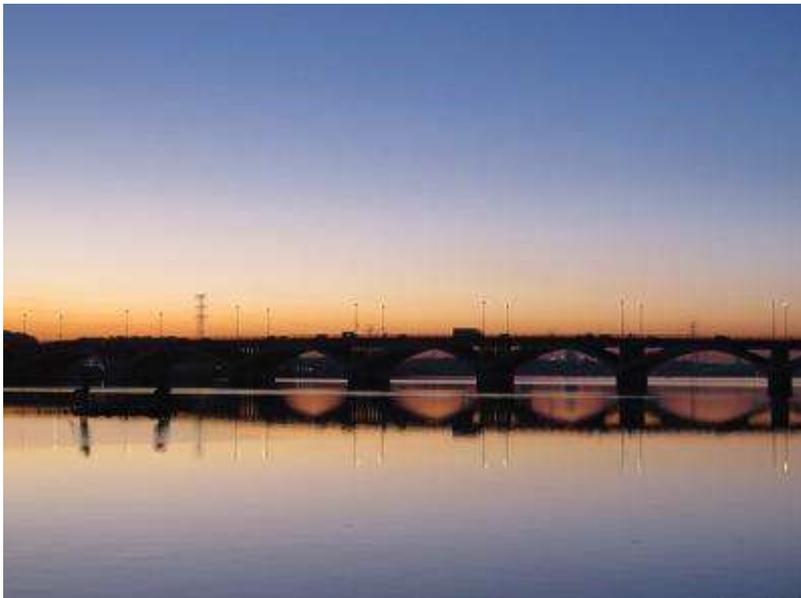


写真左端、鉄塔の奥に見えるのが富士山です。



富士講など、富士山は古くから信仰の対象となってきました。コロナの収束を富士山にお願いしました。

段々と日が沈んできました。



手賀沼周辺を歩いているうちに、辺りはあっという間に真っ暗です。ゴイサギなどサギの仲間や、カモの声がよく聞こえてきます。暗闇に動く白い影が。



影の正体はコブハクチョウでした。コブハクチョウは手賀沼で一年中見られる鳥です。日本では飼育や観賞用として移入されたものが籠めけして、その後各地にひろがりました（野生記録は迷鳥として1933年にあり）。冬に渡り鳥として日本にやってくるオオハクチョウやコハクチョウはくちばしが黄色っぽいのに対し、コブハクチョウはオレンジ色です。

突然、ドーンと大きな音がして辺りが明るくなりました。なんと、真冬の手賀沼の夜空に花火があがりました。



5分弱と短い時間でしたが、キレイな花火でした。花火には鎮魂や無病息災を願う意味があると言われていました。コロナ禍の中で見る花火は、私がこれまで見てきた花火以上に力強いものでした。見えないコロナに怯える辛い毎日が続きますが、少しでも楽しいことを見つけて頑張りましょう。

### January 9日Saturday: 探してみよう縁起のいい植物

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [muramatsu](#)

皆さん、お正月はどのように過ごされたのでしょうか。  
今年は帰省をせず、自宅で過ごされた方もいらっしゃると思います。

私もその1人でした。正月飾りを準備して、普段は作らないおせち（もどき）やお雑煮をつくってのんびり過ごしました（私の故郷では、おせちの松前漬けとチョロギ、お雑煮のいくらが定番です）。



今年は自分で色々準備をしたおかげか、お飾りやおせちに使われる材料それぞれに、おめでたい意味やいわれがあることを再認識できた正月でした。その後、初詣をかねて博物館近くの神社をふらっと散歩してみると、こんな植物たち

が。



神事に広く使われるサカキ



サカキの代用として主に東日本で使われるヒサカキ



名前がめでたいことから縁起がいいとされるマンリョウ



同じく名前がめでたいセンリョウは実が葉より上につく。ほとんどの実が鳥に食べられていました。

ちなみに博物館の自然観察会「てがたん」で、縁起のいい植物や神事に使われる植物などをテーマに扱ったことがありました。

鳥の博物館手賀沼定例探鳥会

2010年12月11日(土)

## とりはく 12 てがたん

【今月のテーマ】 冬支度と植物

案内人: 保田 行弘(鳥の博物館市民スタッフ)



### 正月飾りによく使われる材料があらわす意味

- 栞: 未来の家の繁栄
- つらじろ: 次ページ参照
- 松布: コブは「喜ぶ」や「子生」など、めでたいとされる
- 葉: 収穫の喜びと豊作祈願
- しめ縄: 汚れを清め、外からの災いを防ぐ
- 竹: 神が宿る場所が永遠に続く祈りや生命力の象徴
- 松: 次ページ参照

車や自転車に注意しましょう。永田や私共有地では、マナーを守って観覧しましょう。

### ① 正月飾りに使われる植物

#### ① ユズリハ (ユズリハ)

高さが4~10mくらいに成長する雌雄異体の常緑高木で、本州中部以南に分布します。街路樹や庭木として利用されています。



#### 正月飾りに使われる理由

ユズリハは新しい葉が成長した後、古い葉が落ちるので、歳から子へへた々落ちて子孫が絶えていくことを避けて、正月飾りに利用されています。

地方によっては細子草とも呼ばれるそうです。雪が多い地域や北海道では、高さが1~3mほどのエゾユズリハが分布しています。

#### ② マツ (マツ)

クロマツやアカマツは、どちらも大きいものは、高さが30m近くに達する雌雄同体の常緑高木で、本州~九州に分布します。



#### 正月飾りに使われる理由

高い樹木や大きな樹は、昔から神宿の対象とされてきました。樹木の葉は「ひらもち」と呼ばれ、天に届くように高く伸びるスズが対象とされることが多かったようですが、平安時代からは「神を待つ木」として、マツが利用されるようになりました。

#### ③ ウラジロ (ウラジロ)

明るく乾いた場所にも生育する常緑のシダ植物で、大きいものは2~3m近くになります。日本では本州中部以南に分布します。



#### 正月飾りに使われる理由

ウラジロの葉の裏は白いことから「裏を返しても心は白い」という潔白性や白髪になるまでの長寿を連想させるなど、めでたい植物として利用されています。他にも新しい葉が次々出てくる様が家族の繁栄を象徴するなど、様々な理由があります。

2010年12月のてがたんパンフレット



2008年1月のてがたんパンフレット

冬の散歩では、縁起のいい身近な植物を探してみるのも楽しいですね。

## January 9日Saturday: 手賀沼の結氷と沼の鳥たち

カテゴリ: General

投稿者: odaya



1月9日の朝、開館作業をしながらふと手賀沼を見ると、沼の水面に氷がまだらに張っているのに気がつきました。我孫子の最低気温は-6.9℃に達したようで、今季一番の冷え込みとなったようです。

博物館の3階テラスから、望遠鏡で鳥たちの様子を観察してみました。



△オオバンやホシハジロなどの水鳥は、氷の張っていない水面で休んだり、潜って餌をとっていました。



△オオハクチョウの家族と思われる4羽（成鳥2羽、幼鳥2羽）が沼の対岸で休んでいました。



△魚を食べるタカの仲間のミサゴが杭に止まって休んでいました。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | [トップページに戻る](#) | Since 15,Mar.2008